

創造と交流

仙台市都市ビジョン

- 未来へ挑戦する「杜の都」へ -

平成 1 9 年 1 月

仙 台 市

はじめに

日本は人口減少、少子高齢化の時代を迎えました。これからは活力があり、魅力があり、住みやすい都市は繁栄し、そうでない都市は衰退するという選別の時代になると考えられます。これから十年、百年にわたって、仙台が東北の中核都市として、市民の福祉を向上させ、都市の活力を増し、急成長するアジアの中で確固たる役割を果たしていくためには、人々の価値観の変化、社会・経済環境の変化に伴う様々な課題に挑戦し、主体的・創造的に都市経営に取り組んでいくことが求められます。

古来、ローマ・パリ、京都・東京をはじめとして、多くの都市が政治、経済、文化といった活動の舞台として形成され、変化し発展して、現在に至っています。一方では栄華を誇った中心都市が今では小さな地方の小都市になったり、衰退し、消えていった都市もあります。歴史の流れの中で商業の集積地としての地位を失ったり、交通の結節点としての地位を失ったり、自然の脅威といった環境変化に対抗できなかった都市が衰退して消えていったのです。

科学技術の進歩により、地勢的ハンデキャップが緩和され、自然の脅威が減少した現在は、人々の価値観の変化、社会経済環境の急激な変化への迅速な対応とその継続的努力が都市発展の要件となっています。都市の役割も政治や経済とともに、新しい価値や文化の創造の重要性が増大してきました。情報やモノ、技能を持った人々が集積しネットワークを形成し、交流して新しい産業を生みだす、経済的・社会的・文化的・政治的な力の動的な相互作用によって新たな知識や文化を生みだす、こうした力が都市の発展の原動力になってきました。その際、より重要なのはひたすら前進する馬力ではなく、環境・経済・社会・文化のバランスのとれた知恵であると考えます。

今日、日本の多くの地方都市において活力の低下が指摘されています。自家用車の普及に伴う市街地の拡大、低密度化により都市の中心部の弱体化が起こり、郊外での無秩序な大規模商業施設の立地がそれを加速してきたのです。郊外商業立地は都市の均質化を招き、それぞれの都市固有の歴史性や特性を弱め、都市の魅力を喪失させ中心部の更なる弱体化を招いています。それは自家用車を持たない交通弱者の人たちの生活基盤さえも失わすこととなります。地域や日本の伝統的な価値を尊重し、受け継がれてきた歴史、文化、倫理、道徳、風土、情緒、自然などを大切にすることも、新たな未来の創造に向けての第一歩となります。

1973年ジョージ・ダンツィヒによって提唱された集約型都市（Compact City）は1990年E Uの都市環境緑書（Green Paper on the Urban Environment）で環境面を重視した持続可能な都市（Sustainable City）の概念へと発展しました。仙台市が平成10年の「仙台21プラン」で掲げた、軌道系交通機関を基軸とする集約型の市街地形成への転換は、こうした概念を仙台に適用したものです。集約型都市とは単に効率化を目指すものではなく、自家用車に頼らない範囲に都市機能を集中させることにより、市民の生活の質を向上させ、交流を深め、福祉水準を引き上げるものと言えます。これにより、都市内の環境を改善し、郊外へ拡散した土地利用の効率化を図るものです。新たな都市ビジョンはこの政策を更に強力に推し進めるものです。

私達の仙台は東北地方の中核都市として102万8千人の人口を有し、賑わいのある中心市街地、郊外のみならず街の中にも緑を多く感じさせる落ち着いた景観から、「杜の都」とうたわれる日本有数の都市に成長しました。このような仙台の繁栄は、政宗公以来の、また戦後60余年の先人の暮らし、活動の積み重ねによるものです。私達市民の一人ひとりが仙台の街の作り手であることを強く意識し、次世代に引き継ぐべきものを議論し、そこから新たな活動につながる価値を創り出していかなければなりません。

この「都市ビジョン」は、平成18年6月以降、有識者による「仙台都市ビジョン会議」での議論を経て、今後の仙台の都市づくりの基本的な方向性を示す“指針”として策定しました。また、パブリックコメント、シンポジウム並びにアンケートなどを通して市民のみならず東北7県の皆様などからもご意見をいただき、修正を重ねてまいりました。この都市ビジョンを行政と市民、企業、大学、NPO、各種関係団体が共有し、全ての皆様と力を合わせて、活力と魅力ある仙台の都市づくりを進めていきたいと考えています。

市民の皆様とともに、私達の子供や孫の世代に向けて美しく活力のある「杜の都・仙台」を創り、引き継いでいけるよう全力を挙げて取り組んでまいります。

仙台市長 梅原 克彦

- 目 次 -

《 都市ビジョン策定の趣旨 》

1 . 仙台 2 1 プランに基づく取り組みと策定後の環境変化	1
2 . 都市ビジョン策定の趣旨	2
3 . 都市ビジョンの位置づけ	2

《 本市を取り巻く環境変化と都市づくりの課題 》

1 . 人口減少、急速な少子高齢化、社会経済の成熟化	4
2 . グローバル化の進展、アジアの急速な発展と それに伴う都市間競争の激化	5
3 . 産業構造の転換、知識社会・知識経済時代の到来	5
4 . ライフスタイルや市民意識・価値観の変化、多様化	6
5 . 財政制約、環境制約の強まり	7
6 . 地方分権の進展、都市づくりにおける制度的枠組みの変革	8

《 仙台の強み・ポテンシャル 》

1 . 「学都」としての知的資源の集積	9
2 . 芸術・文化などの創造的活動の広がり	9
3 . プロスポーツなど都市アミューズメントの存在	10
4 . 長い歴史と伝統に培われた独自の文化	10
5 . 「杜の都」の伝統、豊かな自然と 都市機能が調和した特色ある都市空間	11
6 . 商業機能、都市型サービス産業の集積と大きな経済圏の存在	11
7 . 東北の中核都市・交流拠点としての位置づけ	12
8 . 「住みやすい街」としてのブランドイメージの定着	13
9 . 市民、NPOなどによる様々な領域での街づくりの実践	13
10 . 仙台市における主要な取り組みと仙台都市圏での関連プロジェクト ..	14

《 都市づくりの理念と方向性 》

1 . 基本的な考え方	17
2 . 都市づくりの理念と4つの基本的方向性	19
基本的方向性1：「創造」都市	20
施策の方向性1：未来を切り拓く新しい「学都」の創造	21
施策の方向性2：地域経済の成長エンジンの創造による自立的産業基盤の確立	22
施策の方向性3：芸術・文化の創造性を活かした新しい都市の個性と活力の創出 ...	23

基本的方向性 2：「交流」都市	2 5
施策の方向性 4：仙台ブランドの創造と発信による集客・交流の促進	2 6
施策の方向性 5：世界に開かれた国際都市・仙台の実現	2 8
基本的方向性 3：機能集約型都市の形成	3 0
施策の方向性 6：機能集約型都市構造への転換	3 1
施策の方向性 7：公共交通を中心とした交通体系の構築	3 2
施策の方向性 8：世界と交流し、東北の発展を牽引する都市機能の高度化	3 4
基本的方向性 4：「杜の都」の再構築	3 8
施策の方向性 9：質が高く緑豊かで美しい都市空間の形成	3 9
施策の方向性 10：安全・安心な都市の実現	4 1

《 都市ビジョン実現のための仕組み 》

1．都市政策の総合的展開	4 3
2．都市経営という視点からの取り組み	4 4
3．多様な主体の連携による都市づくり	4 5
4．人材育成	4 6
5．都市ビジョンに基づく取り組みの進行管理	4 6

《 仙台都市ビジョン会議 委員名簿 及び 審議経過 》

1．委員名簿	4 7
2．審議経過	4 8

《 用語解説 》

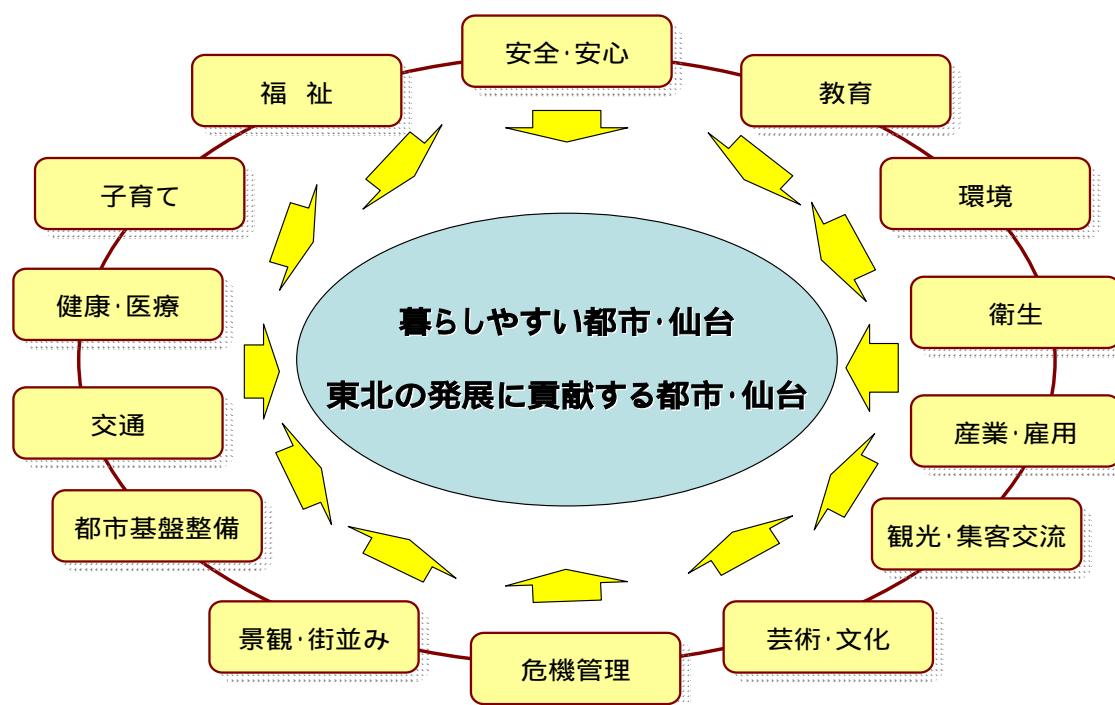
用語解説	4 9
------------	-----

都市ビジョン策定の趣旨

都市は、何よりも市民が暮らす生活の「場」です。福祉、教育、環境、医療、都市基盤整備、文化、産業・雇用など、市民の日常生活に直結したサービスを提供する基礎的自治体として、常に市民福祉の向上を目指し、市民が安全・安心に、健康で幸福に暮らすことのできる「場」でなければなりません。

近い将来発生が予想される宮城県沖地震などの災害や犯罪、感染症等に対する危機管理、市民福祉の向上などのバリアフリーな都市づくり、教育水準の確保など、総合的に都市の機能を向上させること、「暮らしやすい都市・仙台」を実現することが、都市づくりの究極の目標です。

一方、都市は、多様な人材が集まり、交流する「場」ともいえます。そこで様々な情報が交換され、新しい価値が生まれて外部に発信されます。とりわけ本市をはじめ広域地方圏の中心となる都市は、中枢的な行政拠点機能や交流拠点機能、商業拠点機能などの高次の都市機能を有し、多面的な表情を持っています。グローバル化や地方分権がますます進展する中で、東北の発展に貢献できるような都市機能を備えることは「仙台の責任」であるともいえます。



1. 仙台21プランに基づく取り組みと策定後の環境変化

本市は、平成9年3月に基本構想を策定しました。基本構想は、高齢社会や人口減少時代の到来、環境問題、地球的交流の進展、価値観や地域社会の変化などを乗り越え、将来にわたって市民が希望を抱けるような仙台を創造するための指針です。

本市は、基本構想の定める目標と理念に基づき、長期的な総合的施策体系「仙台21プラン」（仙台市基本計画：計画期間 平成10年度～平成22年度）と、具体的な事業内容を定めた「実施計画」（3ヵ年程度の具体的な事業計画）を策定しています。

しかし、経済の低成長や人口減少と少子高齢化の進展など、わが国社会経済の成熟化が想定を超えて進行する一方、アジア諸国の急速な経済発展や国境を超えた都市間競争の激化、地方分権の進展、地球規模での環境問題の深刻化、厳しさを増す都市の財政的制約など、「仙台21プラン*」策定時と比べ、都市を取り巻く環境は急速に変化し、都市は大きな転換期を迎えています。

さらに、本市では、地下鉄東西線の着工という、都市の骨格を変えるほどの大きなプロジェクトが動き出しています。

2．都市ビジョン策定の趣旨

このような大きな環境変化を乗り越えて、本市が持続的に発展し続けていくためには、変化に対応した新たな視点で、戦略的なビジョンを描き、都市の活力と個性、魅力の維持・向上と、そのための基盤づくりを行っていく必要があります。

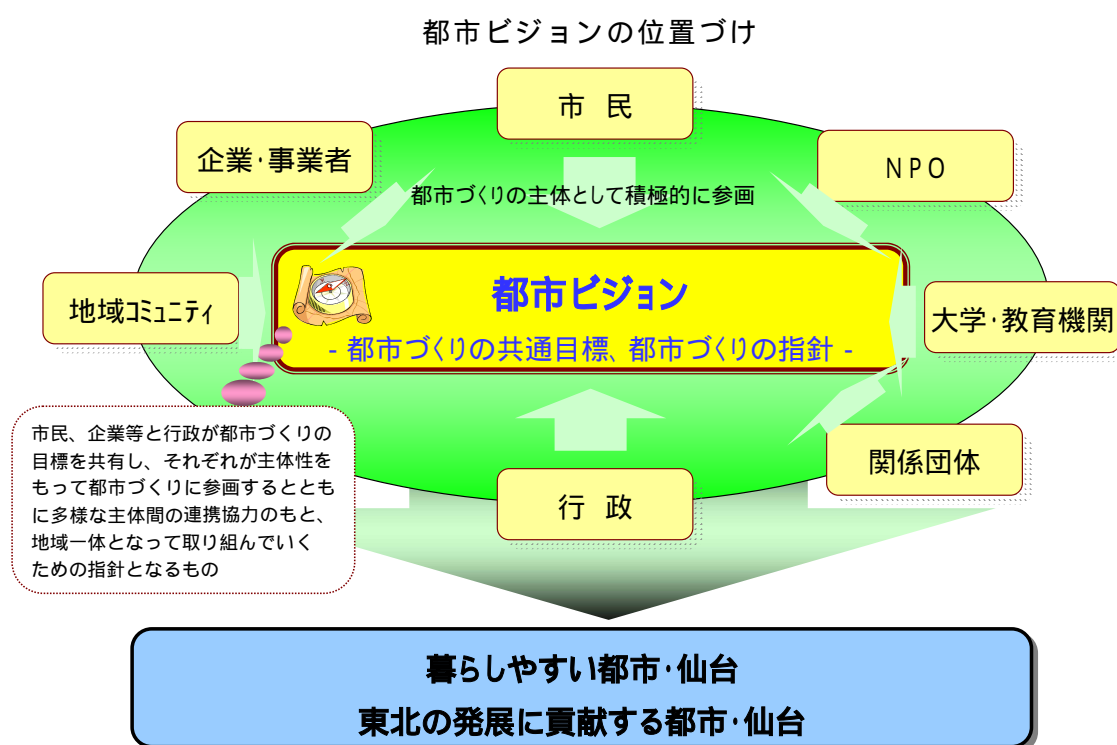
「都市ビジョン」は、このような認識のもと、「産業活性化」と「都市空間の整備・再編」という領域に戦略的に焦点を当て、仙台21プラン*が目指す都市像の確実な実現を図るため、加速させるべき取り組み、強化すべき取り組みを柱として策定します。

3．都市ビジョンの位置づけ

(1) 都市づくりの共通の目標、指針

都市づくりは行政のみが担いうるものではなく、市民、企業等の多様な主体がそれぞれの役割を果たすとともに、相互の連携協力によって進められるものです。そのためには、行政側が積極的に市民、企業等に働きかけ、都市づくりに関する情報と目標を共有する必要があります。

都市ビジョンは、活力と魅力に溢れた都市の実現に向けて、市民、企業、行政等がともに取り組む今後の都市づくりの基本的な方向性を示す指針となるものです。

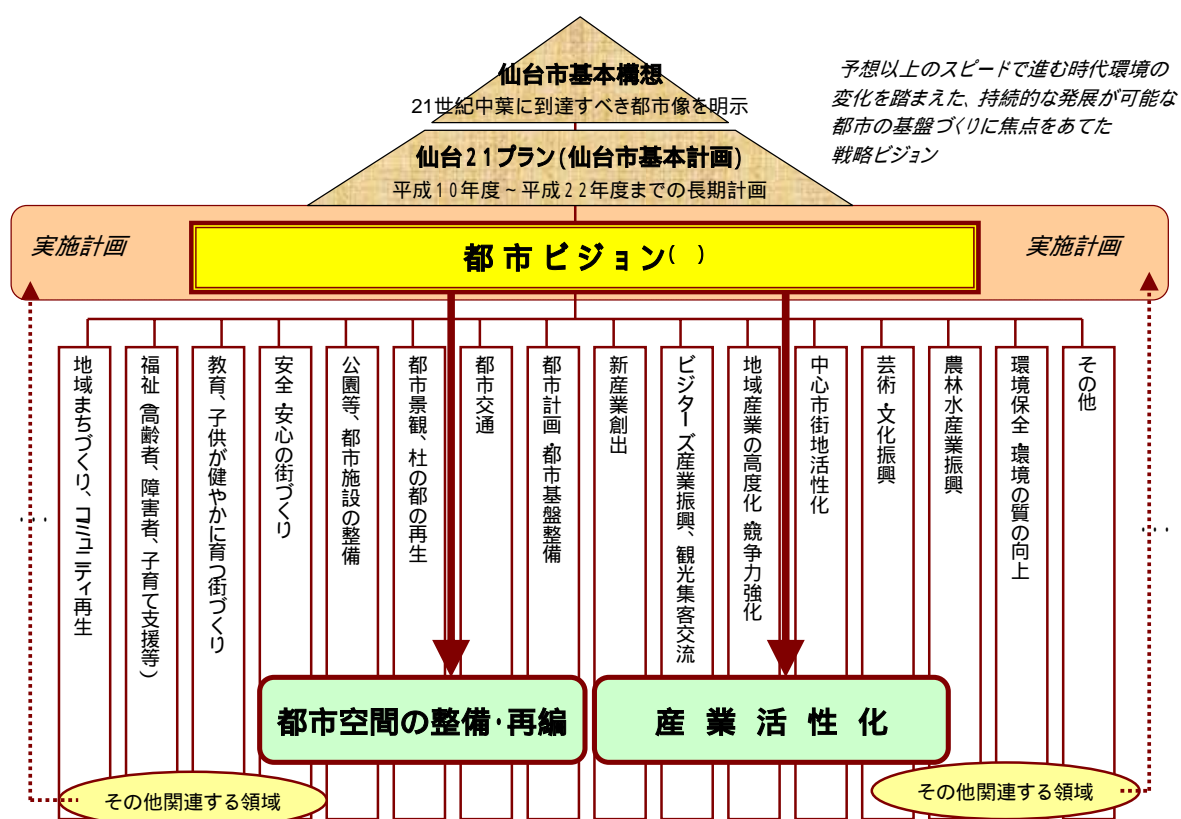


(2) 本市の政策体系の中での位置づけ

都市ビジョンは市民、企業、行政等が都市づくりの目標、方向性について共有することを狙いとするものですが、同時に、行政としての取り組みの基本的な指針ともなるものです。

本ビジョンと並行して策定を進めている新実施計画（平成19年度～22年度）においては、本ビジョンで掲げた取り組みを反映させるとともに、「仙台21プラン」に基づいて継続的に取り組むその他の関連領域も含め、市政全般にわたる総合的な取り組み方針を定めていきます。

都市ビジョンの本市の政策体系の中での位置づけ



[注] 文中*を付した用語については、文末の「用語解説」において補足説明を加えています。

本市を取り巻く環境変化と都市づくりの課題

本市では、平成9年策定の基本構想と、平成10年策定の「仙台21プラン」*（仙台市基本計画）に基づいて、施策を進めています。

しかし、仙台21プラン*を策定した当時と比べると、少子高齢化やグローバル化*の進展など、本市を取り巻く社会経済の動向は予想を超えるスピードで変化しており、ビジョン策定にあたっては、次のような点を十分踏まえる必要があります。

1. 人口減少、急速な少子高齢化、社会経済の成熟化

わが国は既に人口減少時代へ突入し、少子高齢化が急速に進展しています。東北地方は、全県が人口減少局面に入り、少子高齢化も全国平均を上回る速さで進展しています。

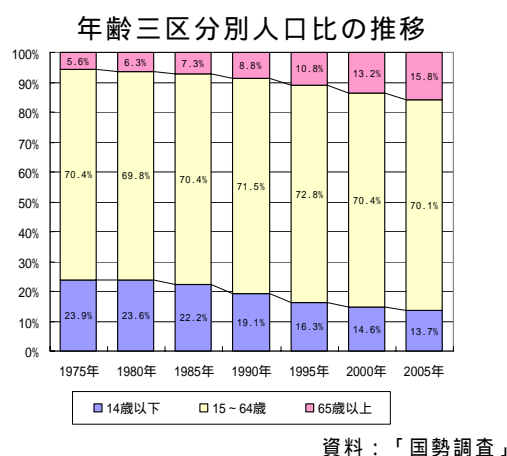
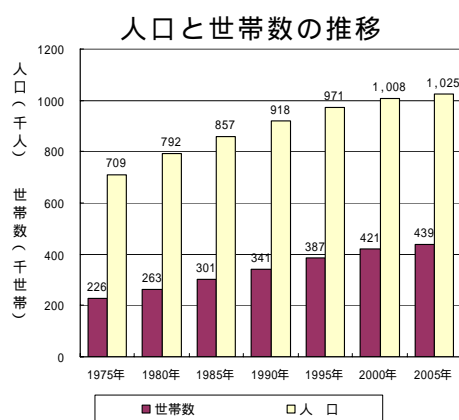
本市においては、当面、人口の微増傾向は続くものの、「21世紀中葉までに緩やかな人口減少に転じる」という仙台21プラン*における予測よりも早く人口減少に転ずることも想定されます。

こうした状況は、都市の成熟化をもたらすとともに、就労人口の減少や需要の縮小など、本市経済や都市の活力へ及ぼす深刻な影響が懸念されています。

このような状況で、都市としての持続的発展を図っていくためには、交流人口や定住人口の拡大、付加価値の高い新しい産業の創出などにより、都市の活力を維持・向上させていくことが必要です。

また、こうした人口減少時代の到来は、低密度に外延化した市街地において、空き家や空地が発生し、地域環境の悪化を招く恐れも指摘されています。

◇本市の人口は、人口増加基調を維持しているものの、近年その伸びは鈍化傾向にあり、少子高齢化も急速に進展しています。



2. グローバル化*の進展、アジアの急速な発展とそれに伴う都市間競争の激化

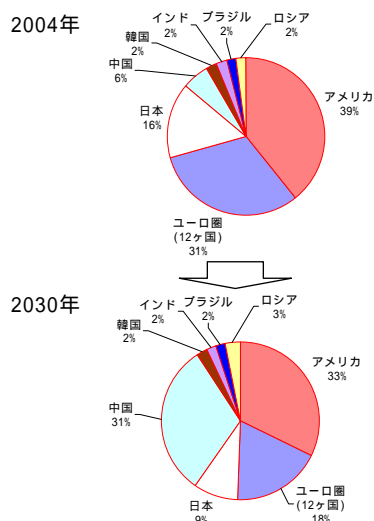
グローバル化*の波が急速に進展しており、特にアジア諸国の急速な発展は、都市間競争の一層の激化をもたらしています。また、発展するアジアの諸都市との交流を深めることは、都市の新たな活力の獲得につながるという側面も有しています。

グローバル時代の都市には、海外とのより一層の交流が求められますが、その中で本市は、東北全体の発展のため、東北のゲートウェイ*都市としての役割を積極的に果たしていくことが必要です。

国際的な都市間競争の中で選ばれ続ける都市であるためには、高次都市機能*の一層の集積・高度化に加え、歴史や伝統に裏打ちされた都市の個性を高め、美しい自然や景観、優れた文化などを備えた魅力的な都市づくりを進めていく必要もあります。

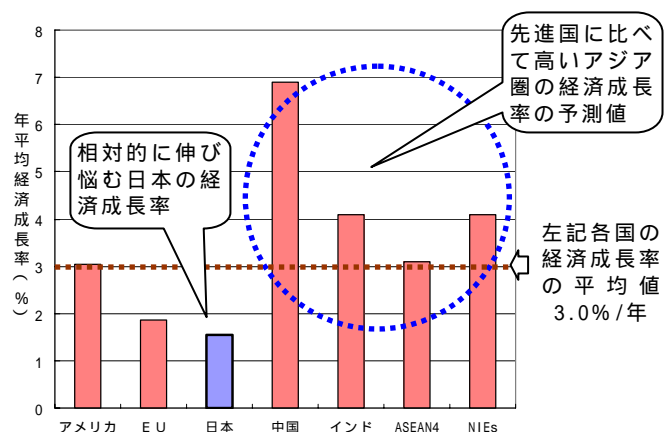
◇ 世界経済に占めるGDPシェアは、2030年には日本やユーロ圏が低下し、中国が拡大するものと、また、世界経済の長期見通し（2030年）では、アジア圏の諸国が先進国に比べて高い経済成長が続くものと予測されています。

世界のGDPシェアの予測



資料：国土交通省「国土審議会資料」
(内閣府「21世紀ビジョン」より)

世界経済の長期見通し



ASEAN4：フィリピン、マレーシア、タイ、インドネシア
NIEs：シンガポール、韓国、香港、台湾

資料：国土交通省「国土審議会資料」
(内閣府「世界経済の潮流2004秋」より)

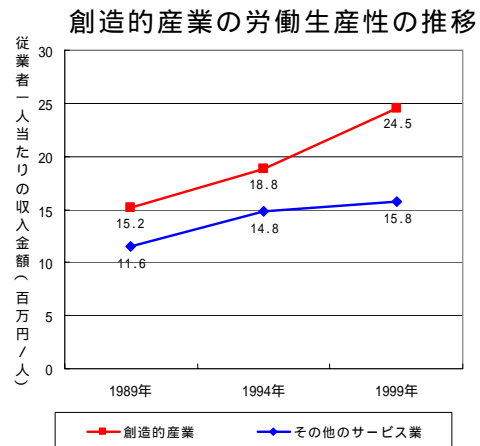
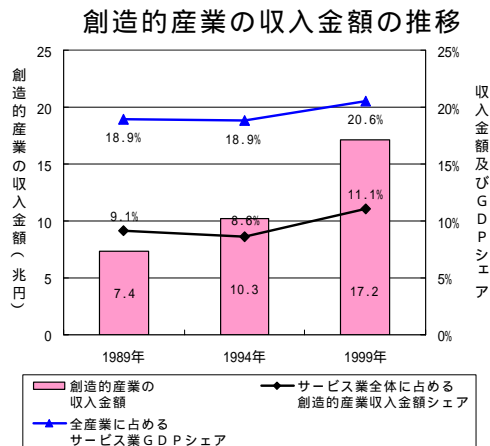
3. 産業構造の転換、知識社会・知識経済時代の到来

21世紀の経済社会では、製造業などを中心とした20世紀型の経済から、知識や情報が価値を生み出す「知識経済」への移行が進みつつあり、都市の活力を生み出す源泉は、知的な創造活動へと変化しています。

本市の産業は、広域的な中継機能を果たす卸売・小売業と都市型サービス産業*が中心となっていますが、支店立地に支えられた「支店経済都市」としての性格も有しています。

産業構造の転換が進む中で、自立的な地域経済を形成し、本市経済の活力を高めていくためには、地域産業の強化に加え、本市の強みである大学等の知的資源を活かした新産業、付加価値の高い創造的な産業の創出を図っていく必要があります。

◇ソフトウェア業やデザイン業などの「創造的産業」の収入金額は、1999年現在17.2兆円に達し（全国）、全産業に占めるGDPシェアが高まっているサービス産業の中でも高い労働生産性をみせています。



創造的産業：産業小分類より、サービス業の中の「映画館」、「劇場、興業場」、「興業団」、「映画、ビデオ制作・配給業」、「映画・ビデオサービス業」、「公共放送業」、「民間放送業」、「有線放送業」、「ソフトウェア業」、「デザイン業」及び「著述家・芸術家業」を創造的産業と定義しています。

4. ライフスタイルや市民意識・価値観の変化、多様化

世帯構成やライフスタイルの多様化とともに、市民の意識、価値観も多様化し、量的充足よりも生活の質への関心が高まっています。

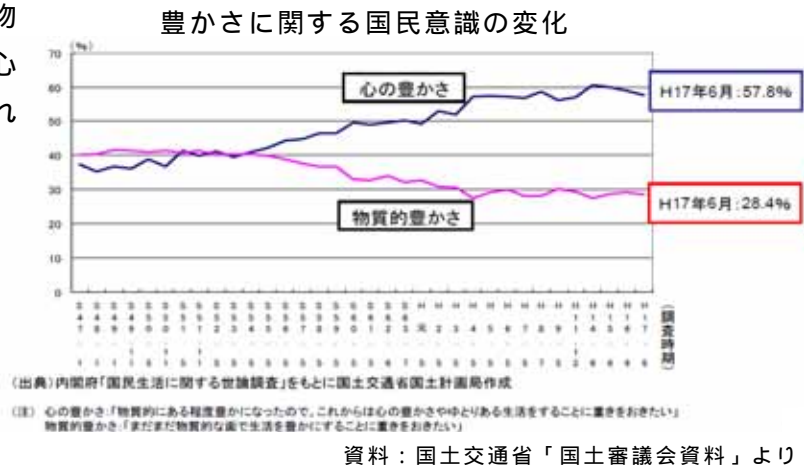
中でも、近年のインターネットの急速な普及に代表される情報通信技術（IT）の進展は、仕事や趣味、購買行動など市民のライフスタイル全般に大きな影響を与えていくものと考えられます。

また、自然災害の増加や宮城県沖地震への不安、様々な凶悪犯罪の発生、「食」や健康に対する関心の高まりなどから、市民生活の「安全・安心」に関するニーズが増大しており、都市としてのこれらの課題への対応が急務となっています。

社会経済の成熟化が進み、市民一人ひとりの生活の質の豊かさを重視した都市づくり、あらゆる人が快適で安心に暮らすことができる都市づくりがますます求められています。

こうした生活者の視点を重視した取り組みを進めることは、都市の魅力を生み出し、広域交流時代における多様な人材の交流、ひいては定住人口の増加をもたらすなど、都市そのものの活力の向上につながっていくという視点を重視する必要があります。

◇ 今後の生活では、「物質的豊かさ」より「心の豊かさ」が重視されています。



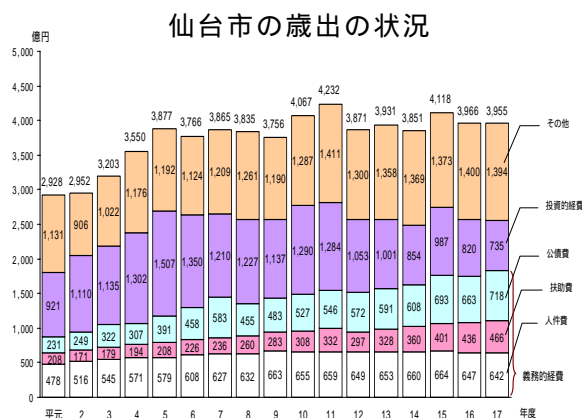
5．財政制約、環境制約の強まり

景気回復の動きが地方にも伝播しつつありますが、高齢化の進展に伴う社会保障費や都市基盤の維持更新コストの増大に加え、公共部門における財政制約はますます強まることが予想されています。

さらに、地球温暖化など環境問題が深刻化する中、都市としての環境負荷の低減、自然環境の保護などもますます求められています。

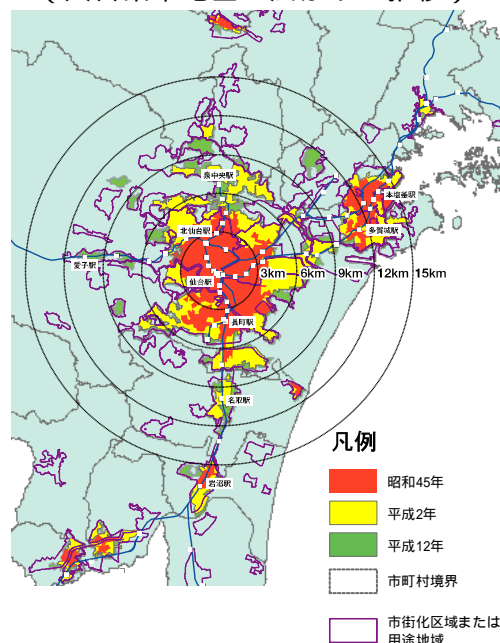
こうした状況下で、都市の持続的発展を可能としていくためには、郊外部の開発を抑制し、自動車に過度に依存しない街づくりを進めるなど、都市経営コストや環境負荷の低減等にも配慮した都市構造*へと転換することが必要となっています。

◇ 税収は持ち直しの動きは見られるものの、義務的経費は年々増えています。
◇ 高度経済成長期以降、急激な人口の増加などにより、市街地が年々低密度に拡大しています。



資料：「仙台市の財政」（仙台市財政局）

**仙台市の市街地の外延的拡大
（人口集中地区の広がりと推移）**



資料：第4回仙台都市圏パーソントリップ調査

6．地方分権の進展、都市づくりにおける制度的枠組みの変革

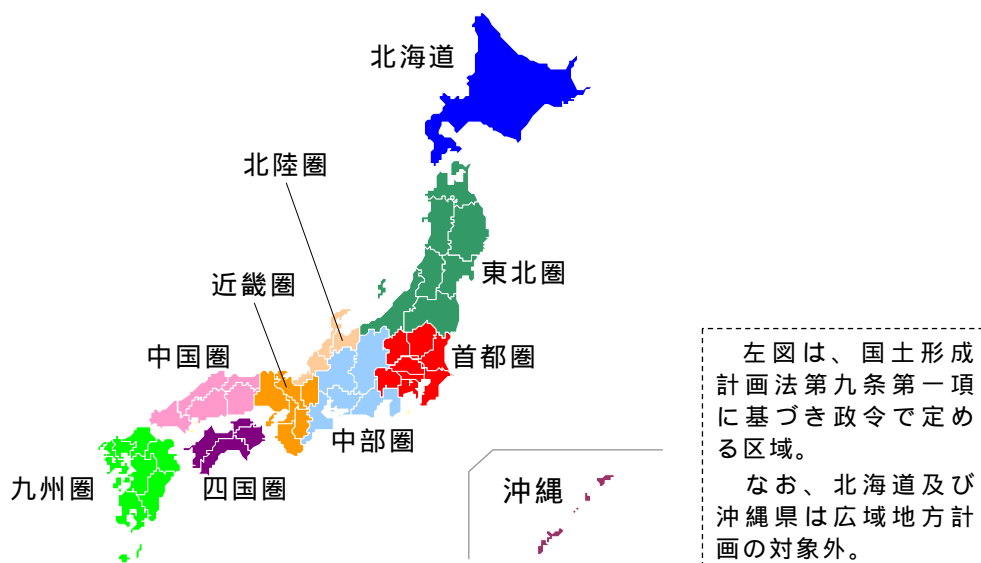
地方分権や税源移譲*など、「国から地方へ」の流れが加速しつつあり、地方自治体の位置づけや役割はますます重要なものとなってきています。

道州制*の議論や国土形成計画などでは、県単位を超えた広域的な地方自治の枠組みが検討されているほか、まちづくり三法*の改正や景観法の制定などでは、都市の量的拡大への対応から質の充実へ、という政策転換が進められています。

社会経済の動向に加え、こうした制度的枠組みの変化も見通した上で、都市は、いわば政策主体として、これまで以上に主体的に都市づくりに取り組んでいくことが必要となってきています。

- ◇ 現在策定中の国土形成計画では、人口減少下の成熟社会*型の質を重視した計画への政策転換が進められています。
- ◇ その中では、「国土の質的向上」、「ストック*の有効活用」、「有限な資源の利用・保全」、「国民生活の安全・安心・安定の確保」、「地域の自立的発展を可能とする国土の形成」が目標に掲げられています。
- ◇ さらに、地方ブロック単位ごとの「広域地方計画」も明確に位置づけられることとなります。

国土形成計画の広域地方計画区域



仙台の強み・ポテンシャル

都市間競争の激化や財政制約が強まる中で、仙台の個性を踏まえながら、取り組みの成果を確かなものとするためには、既存資源を有効活用するとともに、これまで培ってきた本市の持つ強み、ポテンシャル^{*}を最大限に活用することが重要です。

１．「学都」としての知的資源の集積

本市には、東北大学をはじめとする多くの大学、高等教育機関が立地し、「学都」としての知的資源や人材が集積しています。

こうした知的資源の集積を本市の重要な都市機能として捉え、これら大学等による知的な創造活動を、新産業の創造や産業の活性化、地域課題の解決、人材育成など、多くの場面で活かしていくという視点が重要です。

特に、大学キャンパスの大規模な移転^{*}やキャンパスと都心を結ぶ地下鉄東西線が計画されており、今後は、大学の知的創造機能を本市の都市づくりそのもののものに位置づけていくことが必要となっています。



東北大学片平キャンパス



東北工業大学一番町ロビー

２．芸術・文化などの創造的活動の広がり

仙台国際音楽コンクール^{*}や仙台フィルハーモニー管弦楽団、せんだい演劇工房 10 - BOX^{*}の活動など、本市では国内外でも評価の高い芸術・文化の創造的活動が活発に行われています。

また、仙台クラシックフェスティバル^{*}や定禅寺ストリートジャズフェスティバルなど、多くの市民が芸術・文化に触れることができ、「杜の都」の新たな魅力や街の賑わいを生み出す活動が盛んに行われています。

世界の多くの都市において、芸術・文化に着目した都市の再生、「創造都市^{*}」の取り組みが進められていますが、こうした活発な芸術・文化活動の存在は、創造的な人材を呼び寄せ、さらに芸術・文化活動を活発にし、今後の成長性が高いと言われている創造的産業^{*}を興していくという好循環を生み出す重要な要素ともなります。



仙台クラシックフェスティバル



演劇工房 10-BOX
練習室 box-1

3．プロスポーツなど都市アミューズメント*の存在

本市では、サッカーや野球、バスケットボールなど、仙台を本拠地とし、市民の人氣も高いプロスポーツチームが活躍し、都市生活の楽しさを彩る欠かせない要素となっています。こうしたプロスポーツの存在は、広域交流時代における都市の魅力としても重要なものであり、貴重な交流資源として捉えていく必要があります。

また、ハーフマラソンやサッカー、バレーボールなどの国際大会が毎年開催されており、こうした世界的なスポーツイベントを積極的に誘致・開催し、効果的なシティセールス*につなげていく取り組みも重要です。



プロサッカー



仙台国際ハーフマラソン

4．長い歴史と伝統に培われた独自の文化

伊達政宗公による開府以来、400年以上にわたって培われてきた仙台独自の文化の存在も、本市の個性と魅力を構成する大きな要素です。

藩政時代からの歴史的建造物や、七夕まつりなどに代表される伝統行事、多様な食文化の存在、情緒ある歴史的町名の響きなどを、仙台の個性と魅力に歴史的、文化的な奥行きを与える都市の資産として再認識し、そこから都市の新たな価値を創造していく、という視点も重要です。



東照宮隨身門



大崎八幡宮



仙台七夕まつり

5. 「杜の都」の伝統、豊かな自然と都市機能が調和した特色ある都市空間

本市は「杜の都^{*}」として知られ、定禅寺通に代表される緑美しい並木道や都心の清流・広瀬川、西部に広がる山々と温泉など、豊かな自然と多様な都市機能が調和した魅力的な都市空間を有しています。

都市と自然が調和した魅力は、成熟社会^{*}を構成する重要な要素であり、内外の様々な人材の交流と定住を促進するものです。こうした魅力をさらに高め、世界に誇れる都市の個性、魅力を創造していく取り組みが求められます。



定禅寺通



居久根（いぐね）^{*}



広瀬川

6. 商業機能、都市型サービス産業^{*}の集積と大きな経済圏の存在

本市には広域的な商業機能としての卸売・小売業や、都市型サービス産業^{*}の集積があり、これらは都市生活の利便性やショッピングの機会、娯楽を提供するものとして、都市の魅力を構成する不可欠な要素といえます。

こうした商業機能の集積を活かしながら、「杜の都」などの都市イメージ、都市の文化的な魅力を向上させることにより、内外からの集客・交流の求心性をさらに高めることが可能となります。

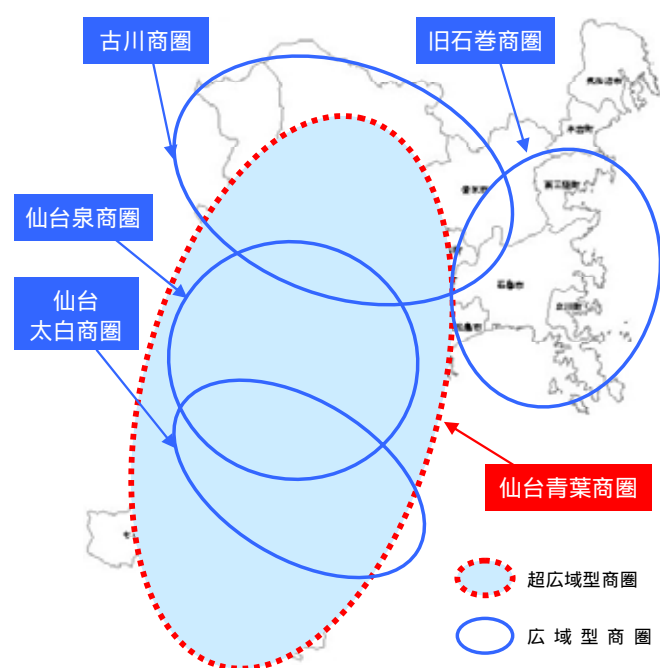
隣県も含めて数百万人規模に及ぶ仙台の大きな経済圏の存在は、小売業のみならず、成長産業として期待される都市型サービス産業^{*}やデザイン、コンテンツ^{*}などの創造的産業^{*}の成長にとっても重要な要素といえます。



仙台卸商団地



中心商店街



宮城県の商圏（平成17年）

7. 東北の中核都市・交流拠点としての位置づけ

本市には、東北の中核都市として、空港、港湾、鉄道、道路網など、東北と国内の他地域、世界を結ぶ結節点、交通の要衝としての位置づけを有するほか、高次の広域的都市機能*（中枢管理機能、研究開発機能、国際交流拠点機能など）の集積があります。

こうした中枢性、拠点性を高めることが、東北と国内の他地域、海外との交流を促進し、東北全体の発展、ひいては本市の発展につながっていきます。

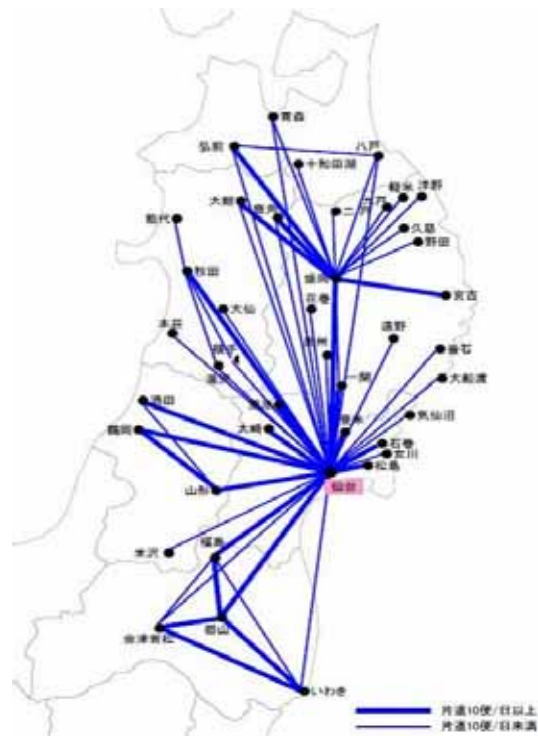
東北地方は、豊かな自然や伝統文化、魅力的な観光地や祭りなど、独自の交流資源を数多く有しており、本市がこうした多様な資源を結びつける核となり、東北全体の発展に寄与していく、という視点も求められます。



仙台空港の
航空ネットワーク



仙台国際貿易港の
国際コンテナ定期航路



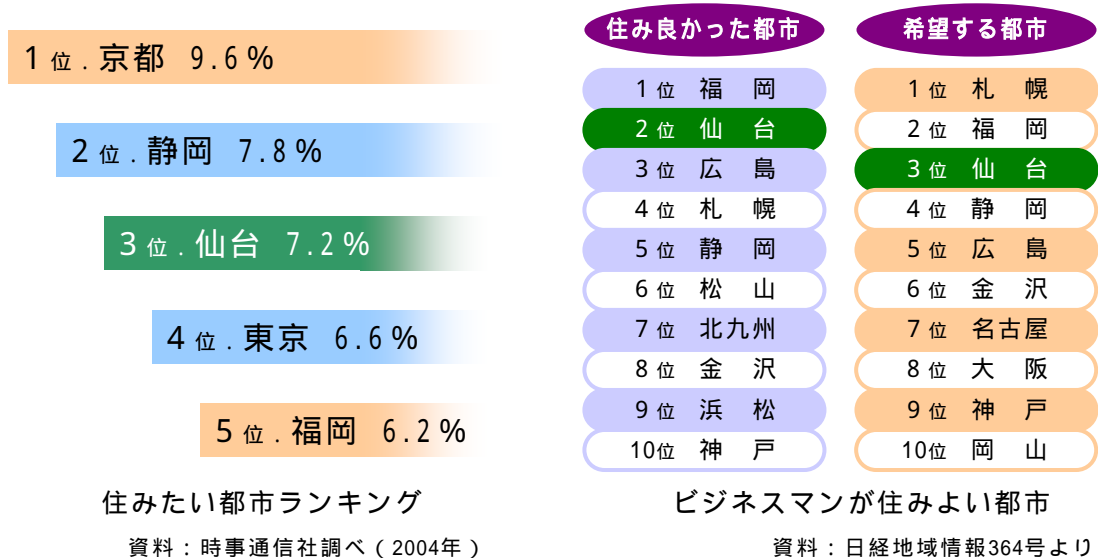
東北6県の
高速バスネットワーク

資料：「高速バス時刻表2005～06冬・春号」

8. 「住みやすい街」としてのブランドイメージの定着

本市は、多くの調査で、「住みやすい街」、「住んでみたい街」の上位に位置づけられています。

こうしたイメージを土台として、本市の強み、ポテンシャル*を活かした都市づくりを戦略的に進めていくことにより、国内外からの多くの人材や投資を惹きつける都市として、さらに個性と魅力を高めていく必要があります。



9. 市民、NPO*などによる様々な領域での街づくりの実践

本市では、SENDAI光のページェントや定禅寺ストリートジャズフェスティバルなど、市民参加によるイベントや行事が盛んであり、市民団体、NPO*などによる様々な街づくり活動が実践されています。

こうした市民やNPO*の存在は、多様な主体の連携による新しい街づくりを可能とし、仙台の新たな活力を生み出す源泉ともなるものです。



SENDAI
光のページェント



景観まちづくりの実践
(八幡町たんけんワークショップ)

10．仙台市における主要な取り組みと仙台都市圏での関連プロジェクト

仙台市内、仙台都市圏においては、産業活性化や都市基盤の整備などの分野において、様々な計画、プロジェクトが展開されていますが、都市づくりの共通のビジョンを持つことにより、これらの取り組みの相乗効果が発揮できるような仕組みをつくっていく必要があります。

(1) 仙台市内及び仙台都市圏における取り組み、関連プロジェクト（主要なもの）

事業等の名称・地区	概要
地下鉄東西線整備及び沿線街づくりの展開	南西部の八木山動物公園付近から都心部の仙台駅付近を経て、東部の荒井地区に至る約13.9kmの路線。平成19年2月着工、平成27年開業予定。各駅の地域特性を活かした沿線街づくりも展開されつつある。
東北大学キャンパス移転、新青葉山キャンパス整備計画*	雨宮キャンパス及び片平キャンパスの一部が青葉山の旧県有地へ移転し、新青葉山キャンパスとして整備する計画。
仙台空港アクセス鉄道*	仙台空港 - JR仙台駅を直行で結ぶ鉄道路線で平成19年3月開業予定。仙台駅 - 仙台空港間が最短17分で結ばれる。
仙台国際貿易港周辺地区	仙台港背後地は、仙台国際貿易港に隣接する地区であり、東北の国際貿易・交流拠点としての機能が期待されている。仙台港ICの整備も計画されている。
あすと長町地区	仙台都市圏南部の広域拠点として土地区画整理事業が進行中。平成19年春には、まちびらき、JR新駅の開業が予定されている。

(2) 都心部における取り組み、関連プロジェクト（主要なもの）

事業等の名称・地区	概要
仙台駅周辺の再開発	花京院地区、中央一丁目第二地区、中央南地区など。
中心市街地活性化基本計画	現行計画は平成12年策定。まちづくり三法*改正やその後の環境変化等を踏まえ、計画改定を行う予定。
仙台駅東地区	駅東第二地区で土地区画整理事業が進行中。
青葉山公園整備	藩政時代からの歴史・文化資産や自然景観を活かしながら、風格のある杜の都のシンボルとなる公園として整備するもの。
西公園再整備	地下鉄東西線の（仮称）西公園駅の整備を契機として、再整備を行うもの。

都市づくりの理念と方向性

本市を取り巻く時代環境の変化や、都市づくりの課題、本市の持つ強み・ポテンシャル*などを踏まえ、これからの都市づくりの理念と方向性を、次のように提示します。

1. 基本的な考え方

わが国はいよいよ人口減少時代を迎えました。人口減少は、少子高齢化の進展と相まって、経済の縮小や都市の活力喪失につながる深刻な問題です。また、近年の東アジア諸国の急速な経済発展に伴い、都市は、グローバルな競争の激化にさらされています。

一方、地方都市の財政的制約は一層厳しくなることが想定されており、地方分権が進む中、都市は、たゆまぬ行財政改革を進めるとともに、時代が要請する課題に挑戦し、自らの創意と努力によって、都市の持続的な発展を図り、その未来を切り拓いていくことが必要となっています。

「21世紀は都市の時代」と言われています。経済活動や人的交流の国境を超えた「大交流時代」において、それぞれの都市が、国際社会における都市の位置づけや、都市活力の源となる成長産業や投資、交流人口等の獲得をめぐって競い合っています。

都市は、様々な情報や知識、能力を有する多様な人材が集まり、交流する「場」であり、情報や知識、アイデアの融合を通じて新しい付加価値を生み出す「場」です。成熟社会*においては、都市的利便性と良好な自然環境、魅力的な伝統や独自の文化を有する地方都市にこそ、大きな可能性が開けているともいえます。

*

21世紀の知識経済社会において、新しい付加価値を創造し、都市の活力を生み出すのは、「知的創造活動」です。「知的創造活動」は、多彩な人材と知識などの「交流」の中から生まれてくるものであり、そのような「場」こそが、まさに都市にほかなりません。

都市は、独創的、革新的な「知的創造活動」により、自らの力で、世界に通用する新たな価値を生み出していくことが求められています。多様な人材の「交流」による新しい価値の「創造」の場となり得るかどうか都市に問われており、このような場となりえた都市だけが、21世紀の都市間競争を生き残っていくことができるといえます。

本市は、「学都」としての長い歴史と世界水準の知的資源の蓄積があり、また、歴史的伝統文化に加え、「楽都*」「劇都*」としての創造的な芸術・文化活動の実績を有しています。こうした蓄積と、様々な市民や企業などの創造性を活かし、仙台発の新しい価値を創造し、世界に向けて発信していきます。

人口減少時代において、都市の活力を維持し、高めていくためには、交流人口を拡大していくことが不可欠です。「大交流時代」における都市間競争の中で選ばれる都市となるため、都市としての交流資源の魅力を一層強化するとともに、内外に対する効果的なプロモーション*活動を展開していきます。

こうした「大交流時代」の拠点となるためには、交通インフラなどの交流基盤の整備に加え、より一層の「都市機能の高度化」が必要です。また、本市の持続的な発展のためには東北全体の発展が不可欠であり、こうした視点から、本市は東北の「交流」の「玄関口」としての役割を果たしていく必要があります。

*

一方、本市の土地利用のあり様に目を転ずると、人口減少時代は、21世紀にふさわしい都市構造*を再構築するための好機ともいえます。現在の過度に自動車に依存した都市構造*を、都市としての環境負荷をできるだけ低減する都市構造*に改めることも必要です。

地下鉄東西線の整備を契機として、軌道系交通機関*、バスなどの公共交通の利便性と快適性を高め、公共交通を中心とした交通体系を構築するとともに、公共交通軸に多様な都市機能を集約し、高齢者や障害者も含め全ての市民にとって暮らしやすく、環境負荷の低減や都市経営のコストの縮減にも配慮した、持続的な発展が可能なコンパクトな都市構造*への転換を進める必要があります。

人口減少時代の到来は、都市政策の重点を、これまでの人口増に伴う量的拡大への対応から、都市の質を高める取り組みに転換するチャンスでもあります。「地球的交流時代」において、真に世界に通用するのは、その地域に固有の歴史や文化です。市民が郷土に愛着と誇りを感じ、内外から多くの人材を呼び寄せるためにも、質が高く美しい街並み、歴史や伝統を感じさせる景観など、都市そのものの個性と魅力を高めていく必要があります。

本市は「杜の都」として全国に知られています。これを世界に誇れるブランドとするため、都市内に存在感のあるボリュームの緑を増やし、緑豊かで、仙台の歴史と個性、魅力をアピールできる美しい街並み、都市空間を形成します。また、政宗公以来の先人が培ってきた歴史的資産の継承・発展・再生に努めます。

*

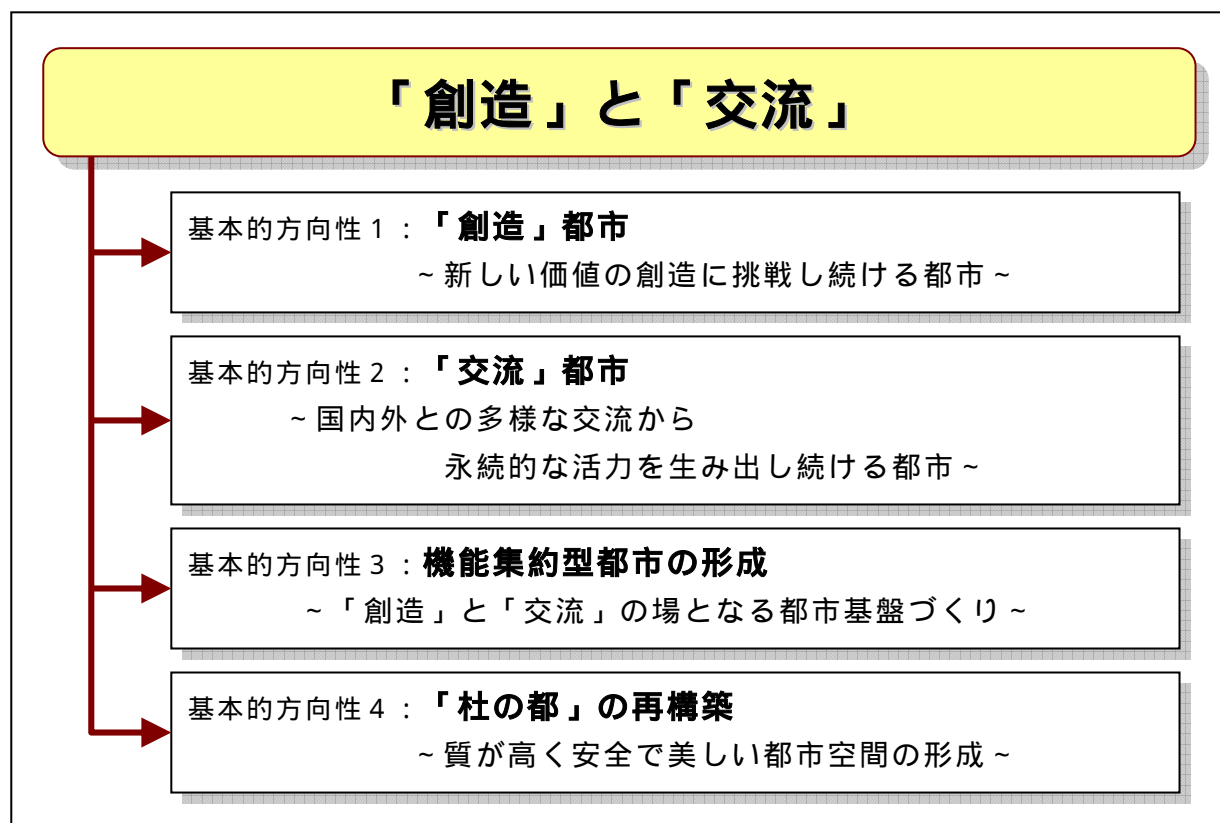
市民の生活の場である都市にとって最も重要な機能は、「安全・安心」を確保することです。世界に通用する都市としての魅力を高め、維持していくためにも、都市としての安全と安心の確保・向上を徹底します。

質が高く安全で美しい都市は、来訪者だけでなく、高齢者や障害者、子供、外国人などを含む全ての生活者にとって暮らしやすい都市であり、これに福祉や教育水準の確保などを加え、総合的な都市の魅力を向上させることこそが、市民の幸福や、定住人口の増加など都市の活性化につながっていきます。

2．都市づくりの理念と4つの基本的方向性

都市ビジョンは、関連する都市政策を統合し、市民、事業者などとともに、「創造」と「交流」を理念として、次の4つの基本的方向性に沿って、世界に通用する美しさと品格、活力に溢れた杜の都の創造を目指します。

都市づくりの理念と4つの基本的方向性



基本的方向性 1

「創造」都市

～ 新しい価値の創造に挑戦し続ける都市 ～

都市の活力を生み出す源泉が、個人や企業の創造的アイデアや知的な創造活動にシフトしてきており、本市においても「知的創造活動」を活発化し、新しい価値の創造に挑戦し、都市としての競争力や活力を生み出し続けていく必要があります。

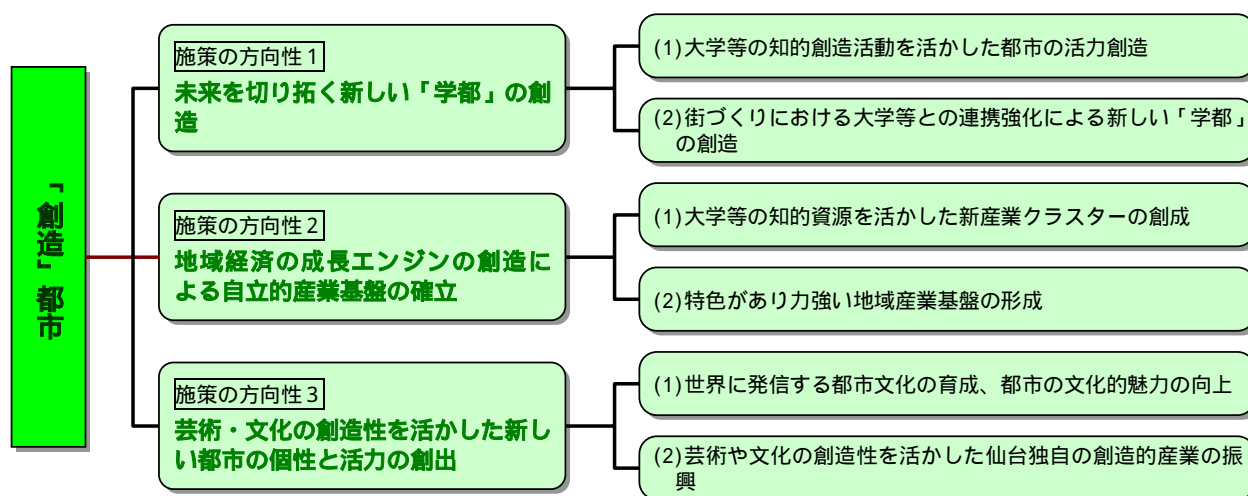
本市は、「学都」として、人材を含む知的資源の集積、広大なキャンパスなどの貴重な空間資源を有しており、これらを本市の重要な都市機能と捉え、都市づくりの様々な場面で活かしていくことが重要です。

大学のキャンパス移転^{*}や地下鉄東西線の整備などを契機として、街づくりにおいても大学等との連携を強め、大学等の知的創造活動や空間資源と、「杜の都」の豊かな自然や多様な都市機能とを連携させ、さらに相乗効果を生み出すことにより、国際社会で存在感を有する新しい「学都」の創造を目指します。

また、大学等の持つ知的資源の集積から付加価値の高い新産業群を創出し、世界的な競争力を有する新産業クラスター^{*}の形成を図るとともに、新産業と地域産業とをつなげ、地域経済全体の成長と競争力の強化を図ります。

また、芸術・文化という領域での創造活動も、都市が発信する新しい価値の創造にとって不可欠なものであり、歴史性や文化的魅力に富んだ都市環境は、市民や企業等の創造的な活動を促進する重要な要素ともなります。

「楽都^{*}」「劇都^{*}」などの芸術・文化の領域における取り組みがさらに活発化する環境づくりを進め、都市の文化的魅力を一層高めるとともに、芸術・文化の創造性を地域の産業集積と融合させ、中枢都市を支える都市型産業として高い成長性を秘めた創造的な産業群を生み出していきます。



施策の方向性 1：未来を切り拓く新しい「学都」の創造

仙台の都市個性を世界に発信し、国際社会における位置づけを確かなものとするため、学都としての強み、資源を最大限に活かし、街づくりの各分野において大学等との連携を強化し、世界に発信できる仙台の個性と活力を生み出します。

また、大学のキャンパス移転計画と地下鉄東西線整備計画を 21 世紀の本市の街づくりの転換点と捉え、市民、世界に開かれた知の創造拠点を本市の都市構造に位置づけ、世界に誇りうる国際的な「学都」の創造を目指した街づくりを進めます。

(1) 大学等の知的創造活動を活かした都市の活力創造

大学等の知的創造活動を本市の重要な都市機能と捉え、大学等との連携をより深めながら、人材の育成や地域経済の活性化など、都市の活力創造につなげていく取り組みを拡充・強化します。

【早期の達成を目指す取り組み】

産学連携や「学都仙台コンソーシアム*」の取り組みなどを拡充し、多様な分野における人材の育成や市民への多彩な教育機会の提供、産業振興、地域課題解決への貢献、国際的な人材・情報交流などを促進します。

国際的な学術会議などを積極的に誘致、開催し、大学等の知的創造活動を介した世界との交流を進め、国際的な学都としての位置づけの向上を図ります。

大学等における加齢医学分野などにおける研究活動と連携し、高齢化が一層進展する中での市民の健康づくり、健康福祉分野などにおける新産業創出など、大学等の研究成果の地域社会への還元を図る取り組みを進めます。

【長期的視点に立った取り組み】

国際的な学術文化交流拠点として青葉山地区のコンベンション*機能の充実を図ります。地域産学官の連携により、東北大学新青葉山キャンパスのサイエンスパーク*構想を推進し、先端的な研究開発地区の形成を目指します。

(2) 街づくりにおける大学等との連携強化による新しい「学都」の創造

世界の学都として国際社会に向けて本市の個性を打ち出していくうえで、本市の都市構造*の骨格を変えるプロジェクトである大学のキャンパス移転計画*と地下鉄東西線の整備は、最大の好機です。都市計画においても、大学等の知的創造活動を中枢的機能として位置づけ、街づくりにおいても大学等との連携を図り、世界に誇りうる、市民に開かれた美しい「学都」の創造を目指します。

【長期的視点に立った取り組み】

大学キャンパス再編計画と、地下鉄東西線の整備、青葉山公園整備などを連動させ、学術と国際交流、自然と歴史、本市の多様な都市機能、文化などが融合した新しい「学都」づくりを推進します。

大学等と連携して、地下鉄・バスなどの公共交通機関を利用してキャンパスや市の拠点などへの移動が便利な交通システムづくりを進めます。



東北大学青葉山キャンパス計画案
(出典：東北大学ホームページ)

施策の方向性 2：地域経済の成長エンジンの創造による自立的産業基盤の確立

都市活動や市民生活を支える自立した経済基盤を確立するためには、地域に根付いた資源から内発する産業を数多く生み出し、その成長を支援していく必要があります。

大学等の知的資源を活かした地域経済の成長エンジンとなる仙台独自の新産業を創出するとともに、これと連動した地域産業の競争力強化を図ることなどにより、自立的な産業基盤の確立を目指します。

（１）大学等の知的資源を活かした新産業クラスター*の創成

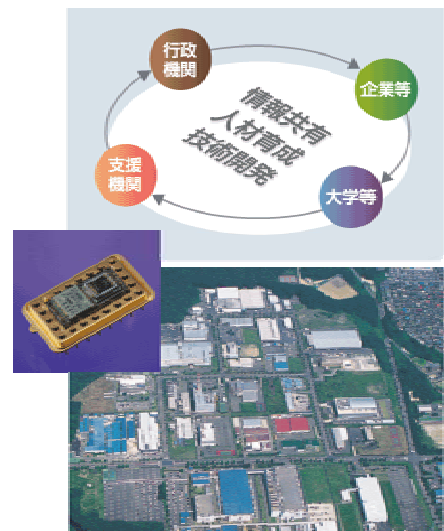
本市経済の大きな強み・ポテンシャル*である「学都」の知的資源の集積を最大限に活用し、産学連携の取り組みを強化しながら、世界に通用するイノベーション*と付加価値の高い新産業の創出が連鎖的に起こる新産業クラスター*の創成を目指します。

【早期の達成を目指す取り組み】

次世代エレクトロニクス産業の基盤技術として期待されているMEMS（微小電気機械システム）*分野において、試作支援や人材育成・コーディネートなどの事業化支援を強化し、付加価値の高いMEMS関連産業群の創出を図ります。

大学や病院等と連携した医工連携*やフィンランド健康福祉センター*プロジェクトを核とした取り組みなどを強化し、高齢社会を産業面から支える医療・健康福祉産業群の創出を図ります。

積極的な誘致活動などにより競争力の高い産業や研究所、都市型サービス産業*の立地を促進し、地域産業の強化と雇用機会の拡大を図ります。



MEMS パーク
コンソーシアム*の仕組み

【長期的視点に立った取り組み】

産学連携の推進により、本市の知的資源や地域産業の特性や強みを活かした新産業の創造・集積を図るとともに、国内外からの投資や研究開発型企業、研究所の誘致を進めることにより、学際的に融合*した国際的な新産業クラスター*を創成します。

大学等との連携により創造的・革新的人材を育成していくほか、創造的人材のネットワークを形成し、常に社会に貢献する新しい「価値」が生まれる創造的・革新的な風土を醸成します。

（２）特色があり力強い地域産業基盤の形成

地域の経済と雇用を支える地域の中小企業の経営基盤の強化や域外の企業や新産業分野との連携等による技術革新、経営革新、新たな事業展開などを個別・総合的に支援することにより、地域産業の競争力を強化し、仙台ならではの特色があり、力強い地域産業基盤を形成します。

【早期の達成を目指す取り組み】

革新性や創造性に富み、高い成長をとげる可能性のあるベンチャー企業や意欲的な中小企業に対して、研究開発から事業化、資金調達、人材確保、販路開拓など、その発展段階に応じた総合的できめの細かい支援を行い、新規事業の創出を増加させます。

中小企業が抱える様々な課題に対応し、大学教員等の専門家を派遣して技術相談・指導を行うなど、地域企業のニーズに則した支援を行い、地域企業の技術力の向上や経営基盤の強化を図ります。

商店街、商業者が少子高齢化時代の多様な地域住民のニーズに対応した事業展開が図れるよう、コミュニティビジネス*の手法などを用いた新たな生活サービスの開発等を支援します。

「地産地消*」を推進し、地域農林水産業の活性化と市民が求める安全・安心な農産物等の提供を図るとともに、食関連産業などとの連携により、市内の農産物等を活用した新商品づくりなどを行う新たなアグリビジネス*の展開を支援します。

【長期的視点に立った取り組み】

携帯電話や携帯端末、無線LAN*、地上デジタル放送*など、ＩＴ（情報通信技術）が生活の中に溶け込み、自由に利用できる環境整備を促進するとともに、ユビキタス*環境に対応した地域の関連産業の成長を図ります。

施策の方向性３：芸術・文化の創造性を活かした新しい都市の個性と活力の創出

芸術・文化の創造性は都市の新たな魅力を生み出すとともに、仙台らしい芸術・文化の街全体への広がり、市民の誇りともなる仙台の活力源となり、高い成長性を持つ都市型の新しい産業の創造にもつながります。

仙台の都市個性、歴史と伝統に培われた芸術や文化の振興により、世界と交流する都市の文化的魅力の向上を図るとともに、芸術や文化の創造性を活かした創造的産業*の振興を図り、都市の活力を創出します。

（１）世界に発信する都市文化の育成、都市の文化的魅力の向上

「楽都*」「劇都*」の取り組み、様々な文化芸術イベントなどの更なる充実を図るとともに、芸術・文化の創造性を杜の都の美しい都市空間形成などとも連動させ、世界に発信できる都市文化の育成、都市の文化的魅力の向上を図ります。

【早期の達成を目指す取り組み】

仙台国際音楽コンクール*や「楽都*」「劇都*」づくりなど、世界性のある芸術・文化の発信都市としての取り組みを強化し、芸術・文化を介した世界との交流を推進します。

仙台クラシックフェスティバル*や定禅寺ストリートジャズフェスティバルなどの文化イベント、せんだい演劇工房１０－ＢＯＸ*を牽引役とした演劇振興など、市民が身近に芸術・文化に触れ、参加できる機会を増やし、芸術・文化による街の魅力と活力の向上を図るとともに、芸術家や市民の創造的活動を重視する都市文化を醸成し、芸術・文化が薫る都市個性を内外に発信します。

創造的活動の拠点施設となっているせんだいメディアテーク*などを拠点として、美術・映像分野と音楽・演劇・舞踊などの分野が融合する芸術・文化事業を総合的に展開していきます。



仙台国際音楽コンクール

【長期的視点に立った取り組み】

地下鉄東西線の駅構内などの公共空間を活用してモニュメントや彫刻等を設置することなどにより、芸術・文化に身近に触れられる環境をつくり、都市空間の文化的な質を向上させます。

県内の美術館・博物館や大学等と連携した街自体のミュージアム化を図る共同事業の展開や、街づくり全体に芸術・文化的要素の浸透を図ることなどにより、芸術・文化の創造性を活かした都市としての新しい個性と魅力の創出を図ります。

都市を象徴するアート系事業の開催を視野に入れながら、事業運営の手法を研究するほか、アートとデザインや、七夕等の観光産業と芸術・文化の融合による新たな展開など、芸術・文化の創造性を活かした都市の活力創生に寄与する様々な事業を検討します。

（２）芸術や文化の創造性を活かした仙台独自の創造的産業*の振興

デジタルコンテンツ*、映像、プロダクトデザイン*などの創造的産業*を育成・強化するとともに、それらの連携により高い相乗効果を生み出す仙台独自の創造的産業*の集積（クリエイティブ・クラスター*）の形成を目指します。

【早期の達成を目指す取り組み】

卸町や東部印刷工業団地、中心商店街等における、芸術やデザインなどの創造的活動をテーマとした地域再生活動を支援します。

産学官の連携による創造的産業*を総合的に支援するコンソーシアム*が中心となり、異業種の連携によるプロジェクトの創出や人材育成、企業支援等を推進します。

ＩＴを媒介として、デザインや印刷、工芸などの地域産業とデジタルコンテンツ*やＥコマース*（電子商取引）などを融合した新産業の育成に取り組めます。



仙台デザインウィーク

【長期的視点に立った取り組み】

若手クリエイターの創造活動や創業間もない創造的産業*の成長を支援する機能を整備します。

都心部に文化資本や創造的産業*の立地を誘導することにより、本市独自の創造的な産業のクラスター*（クリエイティブ・クラスター*）を形成し、質の高い雇用創出を促すと同時に、より文化的な魅力と賑わいに溢れた都心部を形成します。

【注】

1. 「早期の達成を目指す取り組み」には、仙台２１プラン*の終期である平成２２年度までに、一定の成果が上がることを目指した取り組みを掲載しています。
2. 「長期的視点に立った取り組み」には、平成２２年度までに、関連する調査なども含め何らかの取り組みに着手するものの、成果が現れるのは平成２３年度以降になると見込まれるものを掲載しています。

基本的方向性 2

「交流」都市

～ 国内外との多様な交流から持続的な活力を生み出し続ける都市 ～

都市は、ヒト、モノ、カネ、情報などの絶え間ない「交流」の場であり、こうした様々な交流の積み重ねから、新たな知識、価値が創造され、地域産業や都市そのものの活力の向上につながっていきます。「交流」は都市活動の血流ともいえるものであり、交流や集客などがいかに活発になされるかは、これからの都市の存立に関わる問題ともいえます。

また、これからの人口減少時代においては、交流人口の拡大により域外需要を呼び込み、地域経済の活性化等につなげていく視点がますます重要になってきます。

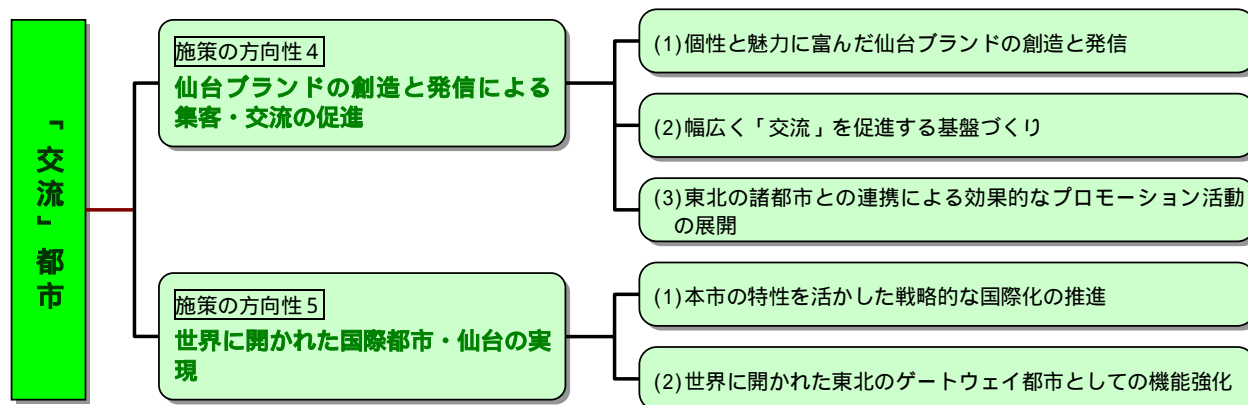
本市には、「学都」としての知的資源の集積や行政・業務などの中枢機能、文化・スポーツなどの魅力的なイベント、全国有数の賑わいを見せる中心商店街などに加え、豊かな自然と都市機能が調和した「杜の都」としての美しい都市空間、藩政時代からの歴史と伝統に培われた独自の文化や四季折々の祭りなど、多くの交流資源があり、こうした資源を最大限に活かしながら、交流人口の拡大を進めます。

さらに、東北の中枢都市である本市は、東北の諸都市・地域との広域的な連携の強化により、それぞれが有する強み、地域資源を活かした互恵的な関係を構築するとともに、こうした東北の様々な資源を結びつけるネットワークの核となることで、東北全体の集客・交流を増大させていという役割も求められています。

地下鉄東西線や仙台空港アクセス鉄道*などの「交流」を支える基盤づくりや、来訪者にとって魅力ある都市づくりを進めることは、都市の「交流」機能の強化にとどまらず、市民にとっての魅力的で暮らしやすい生活環境づくりともなり、ひいては定住人口の拡大にもつながっていきます。

国境を超えた都市間競争の激化を踏まえれば、成長著しいアジアをはじめ、海外の諸都市・地域との交流の強化と国際社会における本市の位置づけの確立がますます重要となっています。東京を経由しない国際的な都市間・地域間ネットワークを形成し、街づくりの様々な分野で、本市の強みを活かした海外との相互補完的・協調的な関係を築きあげ、相互の交流から新しい「価値」が生み出されるような国際的都市間交流を進めます。

また、世界に開かれた東北のゲートウェイ*都市として、東北における海外との交流の結節点としての機能強化を図り、東北全体の国際化を進めます。



施策の方向性 4：仙台ブランドの創造と発信による集客・交流の促進

「交流」を促進するためには、「交流」の目的となる交流資源や都市そのものの価値や魅力を向上させる必要があります。そのため、仙台の都市の個性と魅力を創造するとともに、戦略的なシティセールス*の展開により、集客・交流人口の拡大や多様な人材や企業などの交流を活性化させ、都市の活力の向上を図ります。

（１）個性と魅力に富んだ仙台ブランドの創造と発信

仙台の歴史や伝統に根ざした都市個性、美しい自然や景観、四季折々の祭りやイベントなど、市民の力により仙台の魅力を構成する様々な交流資源を育て、仙台ブランドを確立し、内外に発信します。

【早期の達成を目指す取り組み】

仙台七夕、仙台・青葉まつりなどの歴史を感じさせる祭りやSEND A I光のページェント、定禅寺ストリートジャズフェスティバルなどのイベントを充実・支援し、街の元気を育て、本市の個性と魅力を発信します。

本市の歴史、自然、風土を味わえる食や物産など、仙台の魅力となる資源を発掘・商品化・PRし、新たな仙台ブランドを創造します。



定禅寺ストリートジャズフェスティバル

【長期的視点に立った取り組み】

歴史と伝統、都市の魅力と個性を感じさせる交流資源（歴史的建造物・日本庭園・公園・景観など）を保存・整備・再生します。

文化的イベントを祭りなどの集客イベントと連動させ、観光と芸術・文化の融合による相乗効果を活かした都市の魅力を発信していきます。

（２）幅広く「交流」を促進する基盤づくり

「交流」を観光にとどまらず、ビジネス、コンベンション*、学術・文化、スポーツ、ショッピング、グルメ等、幅広くとらえ、海外を含め、人が集まり交流しやすい都市構造*や来訪者に優しい都市施設の整備、魅力ある都市空間の形成を進めるとともに、市民・事業者のホスピタリティ*、「おもてなし力」を強化するなど、ハード・ソフト両面で「交流」を促進する基盤づくりを進めます。

【早期の達成を目指す取り組み】

都心部において、来訪者や景観にも配慮した良好な歩行者空間の整備や放置自転車対策などに取り組むことにより、中心商店街の動線を、アーケード街を中心とした「線」から、裏通りや横丁を含めた「面」に拡大し、都心の厚みと周遊性の向上を図ります。



中心商店街



るーぷる仙台

プロスポーツや芸術、エンターテインメント*など、市民や来訪者が都市的な楽しみを味わえる機会を増やし、街の活気の向上と集客交流産業の振興を図ります。

伝統文化や芸術などを活かしたイベントの開催や来訪者へのおもてなし（ホスピタリティ*）やガイド機能の向上など、市民や商店街等の集客交流産業の意欲的な試みを支援します。

高齢者や障害者、外国人市民、子供などの仙台に暮らす市民だけでなく、外国人も含めた来訪者の視点にも配慮した誰もが利用しやすいユニバーサルデザイン*の交流基盤施設（都市施設、多言語案内標識等）の整備を進めます。

【長期的視点に立った取り組み】

中心商店街において、広域的商業機能の一層の集積を進めるとともに、地域ごとに、来訪者の多様なライフスタイルに応じた特徴や個性の形成を進め、特色と変化のある歩いて楽しい商店街の形成を図ります。

地下鉄東西線沿線において、学術・文化、新産業創造、自然、食、スポーツ・レクリエーションなどの多様な交流資源を活用した交流軸を形成し、都市文化や若者文化、都市観光、歴史観光、産業観光など、ストーリー性のある魅力的な沿線街づくりを展開します。

（３）東北の諸都市との連携による効果的なプロモーション*活動の展開

東北の諸都市・地域が有する豊かな自然や文化、観光資源、産業集積など、多様な交流資源との連携や、東北のゲートウェイ*都市としての機能強化などにより、東北全体の集客・交流の促進を図ります。

【早期の達成を目指す取り組み】

東北特有の自然や歴史的遺産、食、温泉などを有する東北各地域の観光拠点と連携し、魅力的な広域観光ルートの開発や国内外への効果的な観光プロモーション*等を共同で実施します。

交流人口を飛躍的に拡大するため、地域・関係者一体となった効果的・戦略的な観光キャンペーンやコンベンション*誘致を展開します。

【長期的視点に立った取り組み】

東北の諸都市との連携を拡充しつつ、併せて国の機関及び東北の各県、関係団体等と共に一体となって、国内外から東北全体への観光客を始めとする交流人口の拡大を図ります。

仙台市



松島町



平泉町



気仙沼市



写真：宮城県観光課、平泉町ＨＰ
広域観光連携の取り組み例
（２市２町連携）

施策の方向性 5：世界に開かれた国際都市・仙台の実現

21世紀は「都市の世紀」と言われており、都市は国境のない競争的環境の中で自らの位置づけを確立するとともに、国際社会の発展に貢献していくことが求められています。

「学都」、「杜の都」としての都市個性、都市力を高め、アジアをはじめ海外諸都市とのネットワークを形成することにより、グローバル化が進む世界の中での本市の確固たる位置づけの確立を図るとともに、世界に開かれた東北のゲートウェイ都市としての機能を強化し、東北全体の国際化を促進します。

（１）本市の特性を活かした戦略的な国際化の推進

大学等における知的創造活動、杜の都の良好な都市環境、芸術・文化など、本市の個性と魅力をアピールできる分野において、成長著しいアジアや世界の諸都市・地域とのネットワークを形成するとともに、これらの都市・地域との交流の成果を、都市の活力や市民福祉の向上につなげる戦略的な国際化を推進します。

【早期の達成を目指す取り組み】

国際的な学術会議、政府間会議等の開催・誘致、産学連携による研究開発や産業化支援をテーマとした相互協力的な海外との都市間連携などをさらに進め、学都、知的創造を本市のブランドとしてアジア・世界に発信します。

国際的なスポーツ・芸術・文化イベントを積極的に誘致・開催し、スポーツ・芸術・文化を通じた市民相互の国際交流やメディアによる海外発信などにより、本市の個性と魅力をアピールする戦略的なシティセールスを展開します。

フィンランド健康福祉センタープロジェクトにおける様々な交流の成果を活かし、市民の健康福祉の向上や健康寿命の延伸を図るための取り組みを進めていきます。

国際的な集客交流機能を高めるため、集客、移動及び滞在に関する各種商品・サービス、情報を提供する多様な集客交流産業を育成し、意欲的な試みを支援します。



産業・健康福祉分野におけるフィンランドとの交流

【長期的視点に立った取り組み】

世界中から優秀な頭脳を集めるため、芸術・文化、教育、医療・福祉など、魅力的かつ安心・安全な居住環境や、質の高い事業環境、国際水準の品格ある都市「美」空間を整備します。

国際交流団体などと連携し、外国人や留学生、帰国子女など、多様な文化的背景を持つ人材が、本市で様々な能力を発揮できるような「多文化共生社会」の構築を図ります。

（２）世界に開かれた東北のゲートウェイ*都市としての機能強化

仙台空港、仙台港の利活用促進や機能強化、コンベンション*機能の充実、総合的な国際化支援体制の整備などにより、世界と東北を結ぶゲートウェイ*都市としての機能強化を図ります。

【早期の達成を目指す取り組み】

積極的なエアポートセールス*や仙台空港アクセス鉄道*の利点を生かしたツアー企画、航空貨物の利用促進などにより、アジアをはじめ海外諸都市と直接交流できる空路の拡充を図ります。

荷主企業等への積極的なポートセールス*の展開により、仙台国際貿易港の利用促進を図るとともに、仙台港背後地の整備との連携などにより、仙台港全体の機能強化を図ります。



【長期的視点に立った取り組み】

コンベンション*施設などの国際交流基盤を充実するとともに、人材、情報など、企業の国際ビジネスや市民活動における国際交流を総合的に支援する体制を整備し、世界と東北を結ぶゲートウェイ*都市としての機能強化を図ります。

本市及び東北の特性や戦略を踏まえ、研究開発、新産業創出、芸術・文化、スポーツ、観光、教育、医療・福祉などの多様な分野で、戦略的にアジア・海外諸都市とのネットワークを形成することにより、アジア・海外における本市及び東北の位置づけを確立します。

これまで、都市は、急速な人口増加や経済成長などを背景とした都市化への対応に追われてきました。本市においても、都市規模の拡大に伴い、市街地の外延的拡大が続いてきました。

しかし、過度に自動車に依存し、低密度に市街地が外延化した都市構造*は、これからの人口減少、少子高齢化社会においては、地域環境やコミュニティ*、ひいては都市活力そのものの維持などの面で様々な問題が発生することが想定されます。

こうした都市構造*を、これからの人口減少や財政制約、環境制約の強まりといった時代環境に対応し、市民誰もが暮らしやすく、都市としての持続的な発展が可能なものへと転換していくことが求められています。

また、これまで進めてきた計画についても、こうした環境変化を踏まえ、十分に評価・検証し、見直していくことも必要です。

一方、都市間競争が激化する中、都市としての競争力と活力を向上させていくためには、都市の活力を生み出す源泉である「創造」と「交流」を支え、その舞台となる都市の基盤と都市機能の強化を進めていく必要もあります。

地下鉄東西線の整備や大学のキャンパス移転計画*など、本市の都市構造*の骨格を大きく変えるプロジェクトが動き出している今こそ、将来の本市の姿を見据えた都市のあり様を考え、暮らしやすい都市づくりを進める好機です。

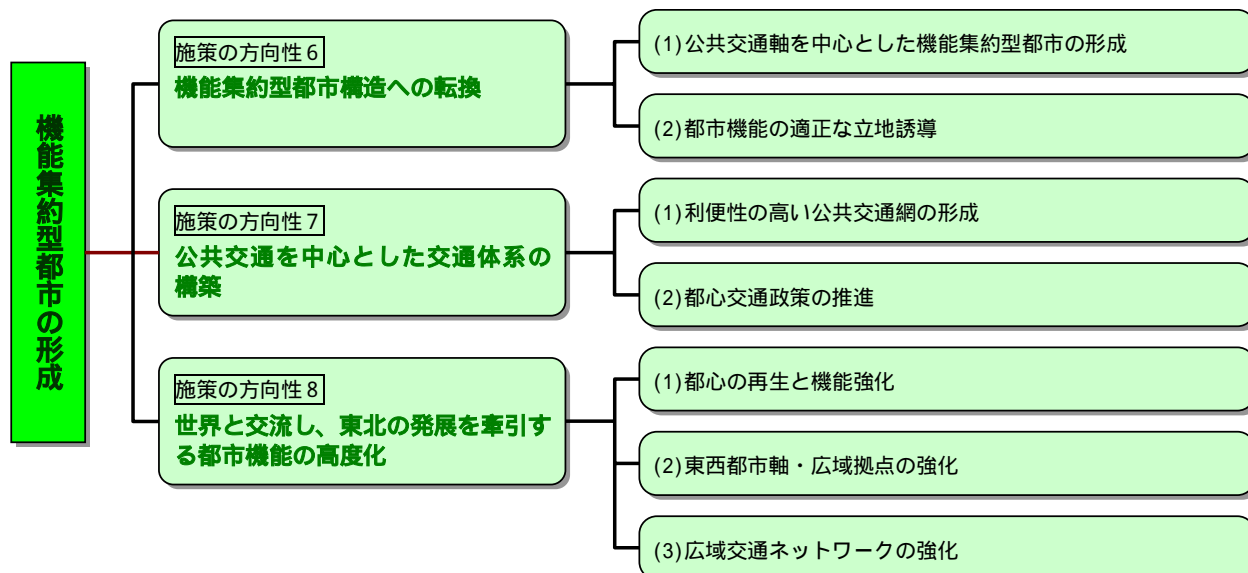
そのため、地下鉄東西線の整備を進めるとともに、既存の軌道系交通機関*やバスなどの公共交通の利便性を高め、街づくりと一体となって、自動車に過度に依存しなくてすむ公共交通網の整備を進めます。

公共交通軸を中心に、多様な都市機能を集約し分担し合う、多機能な都市構造*へと転換し、都市機能へのアクセス性の向上と都市機能の高度化、都市経営コスト・環境負荷の低減をあわせ図る「機能集約型都市」の形成を目指します。

機能集約型都市は、集約化した都市機能相互の相乗効果により、東北の中核都市としての都市機能の一層の高度化が図られるとともに、高齢者をはじめ市民誰もが様々な都市機能にアクセスしやすく、効率的で暮らしやすい都市です。

東北の発展を牽引する中核都市として、国際的な都市間競争に対応していくため、都心部の都市機能と魅力を一層高めるほか、広域交通ネットワークの強化など広域拠点機能の充実を図るとともに、地下鉄東西線の沿線街づくりの展開などにより東西都市軸の強化を図ります。さらに、地域拠点においては歩いて暮らせる生活圏を形成するなど、重層的な都市構造*の形成を進めます。

これらは、都市計画、交通、産業、観光、芸術・文化など、関連する政策領域が一体となった戦略的な取り組みとして行うとともに、本市のみならず東北全体の活性化につなげていくという視点のもとに推進します。



施策の方向性6：機能集約型都市構造への転換

人口減少や少子高齢化、財政制約、環境制約等の推移を見据え、都市機能の適正な立地誘導により、公共交通軸に多様な都市機能を集約し、それぞれの都市機能が分担し合い大きな力を発揮するコンパクトな都市構造*への転換を図り、都市としての持続可能性を高めます。

また、高次の中核的な機能、広域的な生活拠点機能、日常生活機能を支える重層的な都市構造をバランス良く形成します。

(1) 公共交通軸を中心とした機能集約型都市の形成

既存の都市資源を活かしながら、鉄道などの公共交通軸に都市機能を集約した市街地を形成し、公共交通を主な移動手段として機能の連携を図る「公共交通を中心とした機能集約型都市」への転換を実現します。

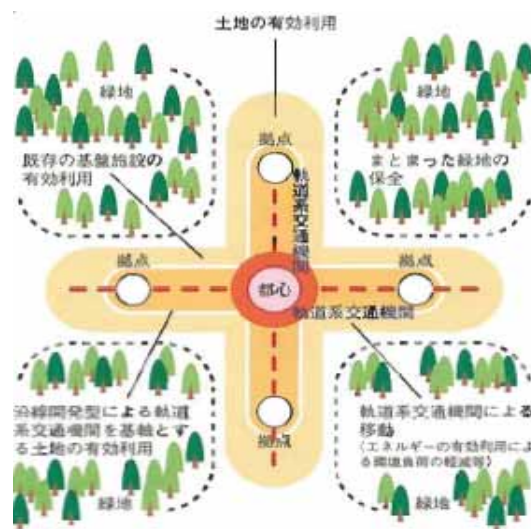
【早期の達成を目指す取り組み】

機能集約型都市を支え、本市の新しい都市軸を形成する基幹的公共交通機関として、地下鉄東西線の整備を着実に推進します。

【長期的視点に立った取り組み】

鉄道などの公共交通軸上への計画的な市街地形成を図るとともに、市街地の外延的拡大を抑制し、周辺緑地の保存と既存の都市施設の効率的な利用による都市基盤施設の維持コストの縮減を図ります。

公共交通の利便性が高く、自動車に過度に依存しない都市構造*を形成し、市民、来訪者の移動性の向上と交通渋滞の緩和、環境負荷の低減を図ります。



軌道系交通軸を基軸とした
集約型市街地

（２）都市機能の適正な立地誘導

都市機能の集約にあたり、国際社会や広域ブロック圏を念頭に置いた高次都市機能*の集積を図る中枢拠点、広域的な生活の拠点となる広域拠点、日常生活を支える地域拠点など、各拠点に必要な都市機能の立地を誘導し、バランスの取れた重層的な都市構造*を形成します。

【早期の達成を目指す取り組み】

郊外部等において、大規模な商業施設や遊技施設等の大規模集客施設*の立地を規制し、都心や拠点等への立地を誘導することにより、都市機能の拡散を防ぎ、都心等の拠点性を高めます。また、その効果をより高めるため、都市圏など広域的見地から立地調整を図る取り組みを展開します。

【長期的視点に立った取り組み】

交通や電気・上下水道・ガス等の既存の都市基盤を有効に活用できる地域に付加価値の高い企業・研究開発施設等の立地を誘導し、産業基盤の強化を図ります。

都心周辺、郊外部の住宅地において、世帯構成等による住宅需要に応じた住み替えを促し、コミュニティ*の維持を図ります。

鉄道駅などの地域拠点周辺に自動車に過度に依存しない生活圏を形成し、既存の都市機能を活かしながら、商業業務、医療福祉、文化などの都市機能の立地を誘導し、高齢社会への対応とコミュニティ*の維持・再生を図ります。



地域拠点周辺における機能集積

施策の方向性 7：公共交通を中心とした交通体系の構築

便利で利用しやすい公共交通を中心とした交通体系を構築することにより、高齢者をはじめ市民誰もが過度に自動車に依存しなくてすむ都市を実現し、コミュニティ*の維持・再生を図るとともに、多様な都市機能にアクセスしやすく、環境負荷の低減にも寄与する機能集約型都市構造への転換を、交通の面から進めていきます。

また、杜の都の象徴的空間である都心部の快適な交通環境を形成し、歩いて楽しいまちなか空間を創出します。

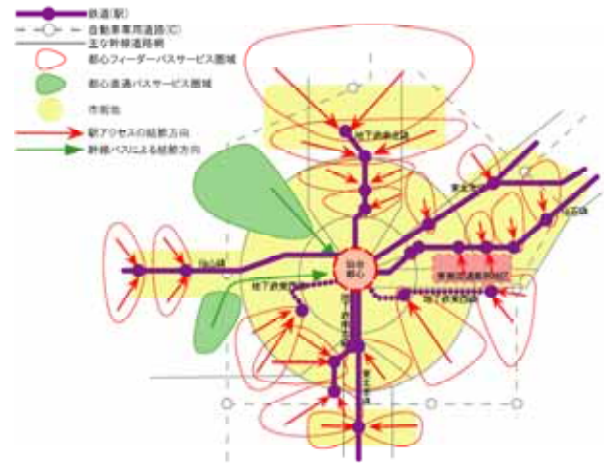
（１）利便性の高い公共交通網の形成

コミュニティ*の維持・再生と環境負荷の低減、便利で暮らしやすい機能集約型都市構造への転換を図るため、都市機能の適正な立地誘導を図る土地利用施策と連携した公共交通戦略を推進し、自動車に過度に依存しなくてすむ利便性の高い公共交通を中心とした交通体系を構築します。

【早期の達成を目指す取り組み】

「アクセス30分構想*」の実現を目指して、公共交通の利用促進や自動車からの転換を図る戦略的な取り組みを進めるための戦略プランを策定します。

望ましい公共交通利用のあり方などについて、市民・企業・関係機関と行政が共に考え、行動できるような仕組みを形成します。



将来公共交通ネットワーク

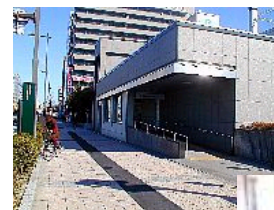
【長期的視点に立った取り組み】

駅前広場や駅へのアクセス道路の整備、駅に結節するバス網の充実など、鉄道駅の結節機能を強化するとともに、駅施設・バス車両のバリアフリー*化やIC乗車券*導入の検討などを進め、公共交通のサービス向上を図ります。

バス網の再編や運賃のあり方などの検討により、公共交通を中心とした利便性の高い交通体系を構築します。

軌道系交通機関*の利用が困難な地区において、定時性、速達性、運行頻度の高い幹線バスなどを導入し、軌道系交通機関*に準じるサービスの提供を図ります。

バス・地下鉄などの公共交通の将来のあり方や効率的な運営方法などを検討し、公共交通の持続可能性を高めます。



地下鉄駅へのエレベーター付出入口の設置

地下鉄車内の車いすスペースの設置



低床バスの導入

公共交通施設のバリアフリー化

(2) 都心交通政策の推進

杜の都の顔であり、「創造」と「交流」の基点ともなる都心部の交通環境の向上を図るとともに、魅力と活力に溢れた杜の都にふさわしい、歩行者中心の歩いて楽しいまちなか空間を創出します。

【早期の達成を目指す取り組み】

仙台駅北部の再開発地区と仙台駅東の区画整理地区を結ぶ自由通路を整備し、仙台駅東西の回遊性を高めます。

市民や来訪者に分かりやすいバス案内表示などの整備を進め、バスの利便性を高めます。

環境に優しい乗り物である自転車利用の促進を図るとともに、自転車と歩行者の共存を図るための自転車走行環境の改善、放置自転車対策などを強化します。

【長期的視点に立った取り組み】

青葉通など仙台駅周辺における都市美創生との取り組みと連動しながら、仙台駅周辺にシンボルとなる空間を整備するとともに、高速バスも含めたバスターミナルを核として仙台駅西口駅前広場を再編し、「創造」と「交流」の基点となり、多くの来訪者が最初に目にする「仙台駅周辺地区」の新たな顔づくりを行います。

バス・自動車・貨物交通の適正な道路利用を推進し、緑豊かな美しい街並みや市民・来訪者が歩いて楽しいまちなか空間を創出します。

トランジットモール*なども視野に入れ、都心へ流入する自動車交通の適切な抑制策を検討することなどにより、都心部の道路空間を歩行者中心に再構成します。

施策の方向性 8：世界と交流し、東北の発展を牽引する都市機能の高度化

都心や広域拠点において、都市活力の源泉である知的創造活動や国内外との交流を生み出し、世界との交流や東北の発展を牽引するための都市機能の高度化を図ります。

また、地下鉄東西線の整備とあわせ、本市の様々な都市機能をつなぎ、仙台の未来を切り拓く東西都市軸の強化を図ります。

(1) 都心の再生と機能強化

杜の都の顔である都心において、東北における中枢性と都心の魅力、賑わいを高めるため、交通、都市空間形成、産業、芸術・文化、国際化などの各種施策が一体となり、中枢的・広域的な都市機能の集積と高度化を図ります。

【早期の達成を目指す取り組み】

ガイドラインの策定などにより、市民、事業者と都心部の街づくりの将来像を共有し、賑わいを形成する建物の用途や壁面後退、緑化などを誘導します。

都市再生緊急整備地域の都市計画特例制度や金融支援制度などを積極的に活用し、民間都市開発事業を促進することにより、都心の都市機能の高度化を図ります。

都心部への文化的機能の導入を積極的に誘導するとともに、中心商店街の活性化の支援や祭り・イベントの充実などにより、都心部の魅力と賑わいを高めます。

仙台駅周辺の市街地再開発事業により、防災性の向上、土地の高度利用を促進するとともに、回遊性や賑わいを創出するオープンスペースを確保するなど、都市機能の強化を図ります。

仙台駅東地区において、土地区画整理事業により主要な幹線道路の整備や土地利用の高度化に向けた宅地の整備を推進します。

【長期的視点に立った取り組み】

仙台駅周辺の再開発等により、「杜の都」の玄関にふさわしい都市機能へ更新するとともに、地下・地上・ペDESTリアンデッキを結ぶ回遊性の基点となり、賑わいの核となるオープンスペースの整備などを誘導します。

様々な都市機能を歩いて享受できる「都心居住」を推進し、都心の活力や賑わいを形成します。あわせて、日照、緑、オープンスペースの確保など、快適な住環境の創出を誘導します。

中心商店街の周辺の通りなどにおいて、来街者や景観にも配慮した良好な歩行者空間の整備、放置自転車の抑制などを組み合わせることにより、来街者の回遊性を高めます。

老朽化した建物が密集し、低未利用地となっている地区において、再開発等を促進し、土地の合理的かつ健全な利用と都市機能の更新を図り、都心の防災性を向上させます。



仙台駅周辺の
ペDESTリアンデッキ

（２）東西都市軸・広域拠点の強化

地下鉄東西線沿線において「創造」と「交流」を生み出す多様な都市機能の集約と相互の連携を図り、仙台の未来を切り拓く「東西都市軸」を強化します。また、あすと長町や仙台港背後地などの広域拠点の都市機能の高度化を図ります。

【早期の達成を目指す取り組み】

東西都市軸の強化

地下鉄東西線の整備効果を活かした各駅周辺の街づくりの推進基盤となる住民を主体とした街づくり組織の形成を誘導します。

動物公園駅や西公園駅での住民主体の街づくり、一番町駅や卸町駅周辺での土地利用の高度化へ向けた取り組みなどを支援します。（駅名は仮称）

あすと長町地区

仙台都市圏南部の広域拠点として、質の高い都市基盤整備を進めるとともに、美しい街並みと良好な環境を創出する街づくりのルールを作成します。交通結節機能*を活かした高次都市機能*の集積を進めるため、交通の主軸となるシンボリックな幹線道路や駅前広場等の都市基盤を整備します。

仙台国際貿易港周辺地区

国際経済交流拠点の形成を目指し、仙台港背後地土地区画整理事業による都市基盤の整備を支援するとともに、広域交通基盤整備として仙台港ＩＣ（インターチェンジ）の整備を推進します。



あすと長町地区



仙台国際貿易港

【長期的視点に立った取り組み】

東西都市軸の強化

東北大学青葉山新キャンパスに、地域産学官の連携による先端的な研究開発地区を形成するとともに、青葉山公園、国際センター地区において、国際的な学術文化交流拠点としてのコンベンション*機能を強化します。また、青葉山公園や仙台城跡の遺構・景観、広瀬川沿いの歴史文化資源を楽しめる遊歩道の整備などにより、豊かな自然と藩政時代以来の歴史性を活かした文化交流拠点を形成します。

仙台城跡と芭蕉の辻をつなぐかつての大手筋界隈の歴史性を活かした賑わいと個性ある街並み形成や、西公園再整備などを活かした街づくりを推進します。また、一番町駅付近の再開発や低未利用地の高度利用、横丁との連携など、駅を中心とした魅力的な商業空間の形成により、青葉通以南への人の回遊性を高め、厚みのある都心商業空間を創出します。

仙台駅東部については、プロ野球球団の本拠地として賑わいを増した仙台駅東地区の拠点性を高めるほか、東部流通団地・卸商団地においては、流通システムの変化をふまえ、地下鉄東西線の開通や素晴らしい並木景観などの既存ストック*を活かしながら、「卸」と「居住、文化」の機能が共存する新たな都市機能をあわせ持った複合型市街地へ転換するとともに、東部に集積する製造業については、再配置と集積エリアの形成を図ります。地下鉄東西線の東の起点である荒井地区においては、駅前広場、バス乗降施設など各種の交通結節施設*を整備するとともに、駅前地区に商業・生活サービス施設等の誘導を図ります。



地下鉄東西線計画の概要

あすと長町地区

仙台空港とのアクセスを踏まえた国際的機能など多様な都市機能が融合し、緑化重点地区、景観形成モデル地区などとして、生活空間や環境に配慮した都市を形成します。

仙台国際貿易港周辺地区

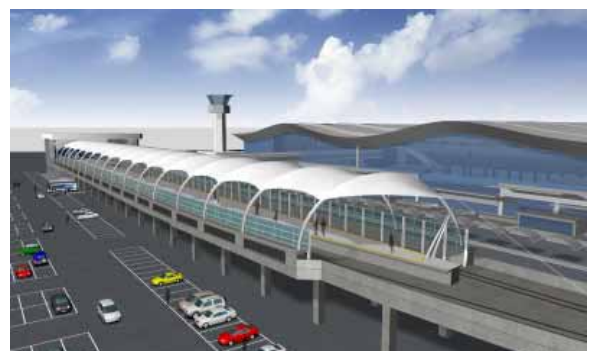
国際貿易を促進する港湾機能の拡充に向けた施設整備などを関係機関とともに進め、国際物流拠点機能などの集積を図ります。

(3) 広域交通ネットワークの強化

東北の中核都市として東北各地の主要拠点間の交流を促進し、東北の発展に貢献するとともに、国際的な都市間競争に対応していくため、仙台国際貿易港や仙台空港への交通アクセスを確保していくほか、高速道路や新幹線などの広域的な高速交通ネットワークの拡充など、陸・海・空のマルチモーダル*な広域交通体系の連携を強化し、東北における広域拠点機能の充実を図ります。

【早期の達成を目指す取り組み】

新幹線の青森までの整備なども展望し、仙台駅と仙台空港をつなぐ仙台空港アクセス鉄道*の開業も踏まえ、利便性の高い交通環境づくりを進めるなど、広域交通ネットワークの強化に向けた取り組みを推進します。



仙台空港アクセス鉄道
(仙台空港駅)

【長期的視点に立った取り組み】

仙台都市圏環状自動車専用道路や常磐三陸自動車道の整備推進とあわせ、東北各地と仙台都心部を結ぶ高速バス網の利便性、機能の強化を図る高速バスターミナルの整備や、東北の重要なゲートウェイ*である仙台空港への交通アクセス機能の強化など、より利便性の高い広域的な高速交通ネットワーク網の形成を促進します。

仙台国際貿易港について、東北を代表する国際貿易拠点及び国際流通拠点として、またレクリエーションなど交流の拠点となる港湾として機能の強化・拡充を図るとともに、モーダルシフト*の推進による東北圏内の各港湾との連携強化を図ります。

都市は、何よりも人々の生活の場です。都市の量的拡大への対応から脱却し、「質」を重視した都市づくりを進めていくことは、そこに住む市民の幸福につながるとともに、都市の未来を切り拓く「創造」と「交流」を促すことにもなります。

都市の「質」とは、市民生活の基盤となる安全・安心や歴史や伝統が感じられる街並みの美しさ、品格、都市生活の楽しさなど、都市の空間や都市の環境の総体ともいえます。教育や福祉、子育て支援、医療などのサービス水準も、市民生活の「質」を左右する重要な要素です。

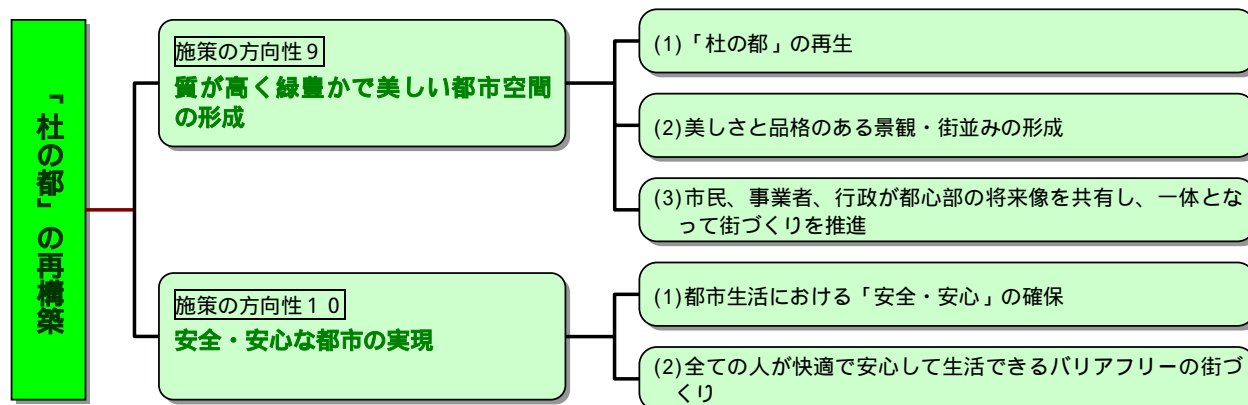
特に、「杜の都」の伝統に立脚しながら、世界に誇りうる魅力と個性、緑に溢れた美しい都市空間を創造していくことは、そこに暮らす市民の誇り、満足度の向上につながるとともに、魅力的な都市のブランドとなり、知的創造活動を担う人材や企業が訪れ、多様な交流を生み出す磁力ともなります。

「杜の都」は本市の最大のブランドであり、これにさらに磨きをかけ、本市の都市個性として世界に発信していくことが重要です。単に緑を増やすだけでなく、公共交通体系の整備により過度な自動車交通利用から脱却することや、道路空間の思い切った再編などと連動させ、多くの市民、企業等の参加と連携のもとに進めていくことで、より質の高い取り組みとなります。

そのため、本市の歴史と伝統に裏打ちされた美しさと品格を感じさせる街並みや景観の形成を、都市計画や景観施策、観光、商店街活性化、防犯、芸術・文化などの政策領域が一体となって進め、来訪者、市民の誰もが「歩いて楽しい街」、「仙台の個性が感じられる街」を実感できるような街づくりを進めます。

こうした都市の魅力の基盤となるのが「安全・安心」です。宮城県沖地震などに代表される自然災害や感染症、食の安全などの健康被害、さらには様々な凶悪犯罪や迷惑行為など、市民生活を取り巻く不安をいかに少なくし、安心して暮らすことのできる都市づくりを進めていくかが、これからの都市づくりにおいて必要不可欠な要素となっています。

さらに、高齢者や障害者などが安心して生活し、自己実現を図ることができるバリアフリー*の街づくりや、都市の未来を担う子供たちが健やかに育つ環境づくりを進め、市民の誰もが快適で安心して暮らすことのできる都市を目指します。



施策の方向性 9：質が高く緑豊かで美しい都市空間の形成

歴史と伝統、個性と魅力を有する、世界に誇れる都市を目指し、楽しさ、賑わい、潤い、美しさと品格のある緑豊かな都市空間を創造していきます。そのための取り組みを、市民、事業者、行政が一体となって進め、市民誰もが郷土として誇りうる「杜の都」を再生します。

（１）「杜の都」の再生

仙台の最大のブランドである「杜の都」を世界に誇れるものとするため、道路空間の再構成、公園整備、市民参加による民有地緑化、市街地と農地、自然のバランスを考慮した市街地形成などを総合的に推進し、杜の都の再生を図ります。

【早期の達成を目指す取り組み】

本市の最大のブランドである「杜の都」を世界に誇れるものとするため、道路空間の再構成等により、都心部に存在感のある緑を増やします。緑豊かな緑陰道路から美しい街並みを広げ、公園計画とあわせて「緑の回廊づくり*」を推進します。公共施設や道路空間、公園などの公共空間における緑化の取り組みとあわせ、民有地の緑化や「１００万本の森づくり」など、市民参加による取り組みを強化し、市街地全体として緑被率*を高めていきます。



都心の目指す緑の姿



道路空間再構成による緑の創出のイメージ
（資料：緑美しい杜の都推進協議会）

【長期的視点に立った取り組み】

仙台城跡を含む青葉山と広瀬川の清流に囲まれた青葉山地区において、藩政時代からの歴史・文化遺産や優れた自然景観を活かし、風格があり、海外からの訪問客の視点も踏まえた「杜の都」のシンボルとなる公園を整備します。

地下鉄東西線の整備にあわせ、西公園を、「緑の回廊づくり*」の核として、また、歴史的空間を味わえる都市観光の起終点、文化的イベントなど新たな都市文化の創出拠点等として再整備します。

仙台城跡、郡山遺跡などの本市の歴史を体現する史跡や歴史的資源を整備し、仙台らしい歴史と風情が感じられる都市空間を保全・再生します。

市街地の形成にあたり、多面的機能を有する農地と市街地、自然のバランスを考慮し、「居久根（いぐね）*」などの美しい原風景の保全に努めます。

大都市にありながらも類まれな自然環境と景観価値を有する広瀬川と市街地の緑や郊外の緑地をネットワーク化することにより生態系を確保し、自然と共生できる快適な都市環境の形成を図ります。

四ツ谷用水*などの歴史的資産も踏まえながら、都市生活に潤いを与える水辺空間や、「杜の都」の緑と調和した水環境のあり様などについて検討していきます。

（２）美しさと品格のある景観・街並みの形成

仙台の歴史と伝統に培われた美しさと品格を感じさせる景観や街並みの形成、歴史性を活かした街づくりを、都市計画や景観形成、中心市街地活性化、芸術・文化施策、コミュニティ*活性化などの領域が一体となって進めます。

【早期の達成を目指す取り組み】

都市の個性をアピールする魅力のある景観の形成に向けて、景観法に基づく景観計画の策定を進めます。都市の記憶や伝統的価値の継承、歴史性を活かした街づくりにより、本市の個性と魅力を高めるため、歴史的町名の復活を検討します。



美しく賑わいのある街並み

【長期的視点に立った取り組み】

都市計画と景観施策との連携により、市街地環境の改善や個性のある美しい都心の街並みを形成します。都市景観の観点から、都心部等における建築物の形態意匠を規制・誘導するとともに、美観を損なう屋外広告物を極力排除します。

公共施設の美観向上などにより、統一感のある美しい街並みを形成するほか、定禅寺通、青葉通などを都市美創生のモデル地区とし、世界に誇れるケヤキ並木の緑と一体となった都市空間を形成します。青葉山周辺の緑を背景とした美しい都市空間など、保全すべきランドスケープ*の設定や景観形成上重要な建造物の指定などにより、本市の歴史と個性、魅力をアピールできる歴史的・文化的景観資源や自然景観を保全・再生します。



広瀬川

（３）市民、事業者、行政が都心部の将来像を共有し

一体となって街づくりを推進

歴史と伝統を有し、都市アイデンティティ*の基点とも言える都心部において、関係者が街づくりの将来像を共有し、一体となって街づくりを進めていきます。

【早期の達成を目指す取り組み】

都心部において、ガイドライン等の策定により市民、事業者と街づくりの将来像を共有し、賑わいを形成する建物の用途や壁面後退、緑化などを誘導します（再掲）。土地区画整理事業により基盤整備が進む仙台駅東地区において、住民を主体とした街づくり組織の形成を誘導するとともに、緑が多く美しい街並み形成に向けた取り組みを支援していきます。

地下鉄東西線の整備を契機とし、市民、事業者、行政が一体となって沿線の街づくりに取り組むとともに、地域の特色に応じた街づくりの取り組みを支援していきます。

【長期的視点に立った取り組み】

中心商店街の周辺の通りなどにおいて、来街者や景観にも配慮した良好な歩行者空間の整備、放置自転車の抑制などを組み合わせることにより、良好な都市空間と来街者の回遊性を確保します（再掲）。



良好な歩行者空間の整備の例（都心部における電線類地中化）

施策の方向性 10：安全・安心な都市の実現

市民生活を支える最大の基盤であり、持続可能で活力と魅力に溢れた都市の発展の基礎となる「安全・安心」を、都市のハード・ソフト両面からとらえ、誰もが快適で安心して暮らすことのできる安全・安心な都市の実現を図ります。

（１）都市生活における「安全・安心」の確保

地震など自然災害や大規模な事故等の都市災害に対する都市防災基盤の整備、感染症や食の安全など市民の健康被害を防ぐ取り組み、都市全体の犯罪抑止力の向上などを図るとともに、都市全体としての危機管理能力を高め、あらゆる面から市民生活の「安全・安心」の確保を図ります。

【早期の達成を目指す取り組み】

近い将来、発生が確実視される宮城県沖地震などの自然災害や大規模な事故等の都市災害に備え、消防資機材の整備や防災システムの高度化、公共施設及び民間建築物の耐震化、自主防災組織の育成、市民への啓発活動などを総合的に推進します。

感染症や食品の安全など、市民生活を脅かす健康被害を予防し、また被害の拡大を最小限に抑える取り組みの徹底を図ります。

地域の自主的な防犯活動への支援、地域ぐるみの学校安全体制の整備などに対応するため、市民の防犯意識の向上と地域住民の交流活動を図りながら、社会的迷惑行為の抑止等を通じて、家庭と地域社会、関係機関等との連携により、犯罪が起きにくい環境を形成します。また、犯罪被害者などへの支援を推進します。飲酒運転等が社会的に問題となっている現状も踏まえ、仙台市交通安全計画に基づき、市民、関係機関等との連携による交通事故防止対策を推進します。



総合防災訓練



地域の防犯組織
（仙台中央国分町地区防犯指導隊）
（写真：警察庁生活安全局HP）

【長期的視点に立った取り組み】

道路や橋りょう、ライフライン*等、都市生活を支える様々な都市基盤施設の更新時期到来に向け、効果的な維持管理を行う公共施設のアセットマネジメント*に取り組むなど、厳しい財政状況に照らした公共施設の計画的な維持更新を推進し、都市生活における市民の安全・安心を確保します。

（２）全ての人が快適で安心して生活できるバリアフリー*の街づくり

少子高齢化の進展を見据え、高齢者や障害者などが安心して生活し、自己実現を図ることができるバリアフリー*の街づくりを、ハード、ソフト両面から充実させていくとともに、都市の未来を担う子供たちが健やかで安全に暮らすことのできる環境づくりを進めるなど、全ての人が快適で安心して生活できる環境づくりを進めます。

【早期の達成を目指す取り組み】

公益的施設のバリアフリー*化を進めるほか、高齢者や障害者が多様な都市機能にアクセスし、快適かつ安心して都市生活を送れるよう、都市空間形成、交通政策などの面からもバリアフリー*の街づくりを推進します。

子供たちも含めた全ての市民が利用しやすい都市施設・都市空間を享受できるよう「ユニバーサルデザイン*都市」としての環境を整備します。



バリアフリーの街づくり

資料：ひとにやさしいまちづくり推進協議会

都市ビジョン実現のための仕組み

「都市づくりの理念・方向性」に基づく各種の取り組みを効果的に進め、目指すべき将来像の実現を図っていくためには、次のような視点が重要です。

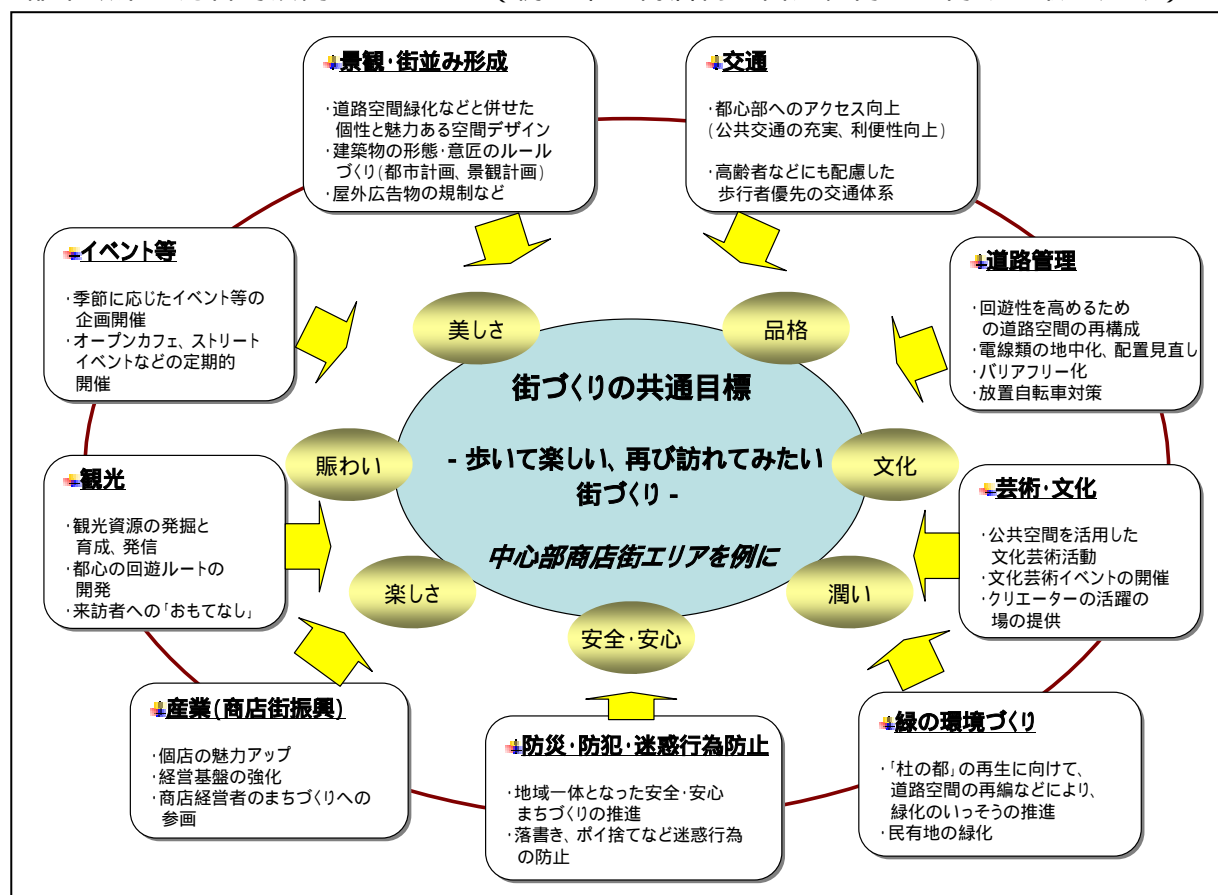
1. 都市政策の総合的展開

都市ビジョンに基づく各種の取り組みを進めていくにあたっては、ともすれば縦割りの政策領域ごとに行われがちであった個別の取り組みを、共通の目標のもと、産業振興、芸術・文化、都市計画、都市空間形成などの都市政策を融合し、一体となって展開していく必要があります。

施策展開のイメージ（4つの基本的方向性の相互の関連性）



都市政策の総合的展開のイメージ（例：中心商店街の回遊性向上に向けた取り組み）



2. 都市経営という視点からの取り組み

地方分権の時代において政策主体として都市の位置づけはますます重要となっており、財政制約が強まる中、公共投資の厳選と効率化を図り、持続可能な財政基盤を確立していくことが重要です。

平成18年4月に策定した仙台市行財政集中改革計画において、公共投資の厳選：普通建設事業を平成21年度までに歳出総額の15%以下にすること、平成21年度には市債管理基金からの借入れを行わないような財政健全化、税、使用料、手数料等の収入確保と市有財産の処分・有効活用による収入確保、平成22年度までに17年度当初比1,000人の職員純減、既存事務事業の整理、統廃合、民間委託の推進、などの行財政改革計画の基本的な考え方を提示しています。

特に、都市基盤の整備などの領域においては、これまで整備してきた各種のインフラの維持・更新などのコストの増大が見込まれる中で、都市の未来のために真に必要な投資を見極め、選択と集中により必要な事業費を優先的に確保していくとともに、既存のストックの有効活用を図るといった視点を重視する必要があります。

厳しい財政制約の中、これまでの「公共＝行政」という視点から脱却し、行財政改革などの取り組みをいっそう強化するとともに、PFI^{*}、PPP^{*}と呼ばれる事業手法なども含めた官民の連携協力による取り組み、民間活力の活用などの取り組みを一層拡大していく必要があります。

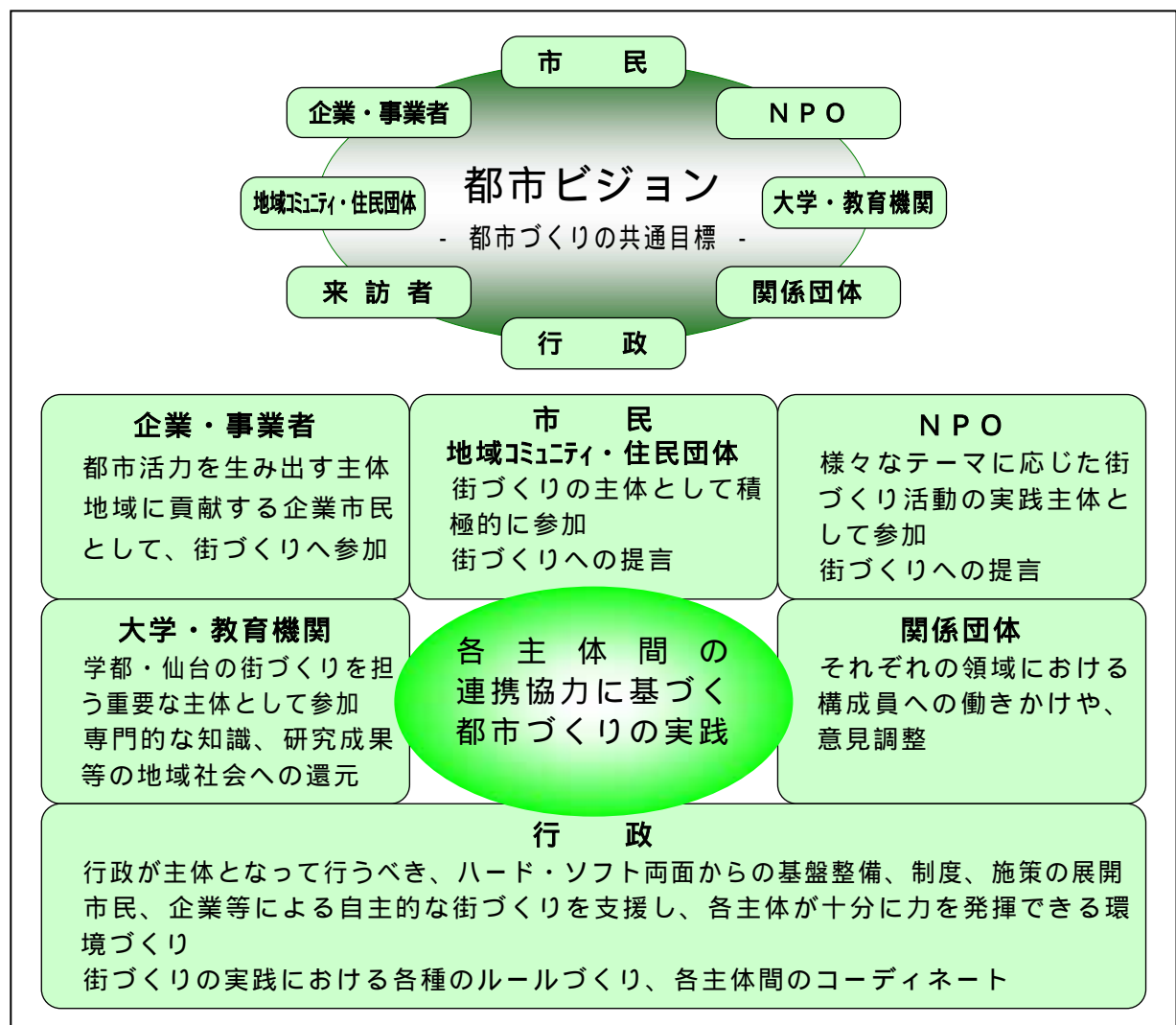
3．多様な主体の連携による都市づくり

都市ビジョンに基づく取り組みを効果的に推し進め、活力と魅力、品格に溢れた都市を実現していくためには、行政のみならず市民、大学、企業、NPO等の多様な主体が都市づくりに参画し、長期的視野のもと、共通の目標を持って都市づくりを進めていくことが必要不可欠です。

本市には、広瀬川の清流を守る条例や脱スパイクタイヤ運動、定禅寺通を舞台とする様々なイベントなど、市民参加による街づくりを実践してきた実績があります。

都市ビジョンは、都市づくりを担う様々な主体が共有できる都市づくりの共通目標、取り組みの指針として提示するものであり、今後、個別の施策において、それぞれの役割分担などを明確にしつつ、主体間の連携協力により、ビジョン実現に向けた取り組みを実践していくための仕組みを構築していきます。

多様な主体の連携による都市づくりのイメージ



4．人材育成

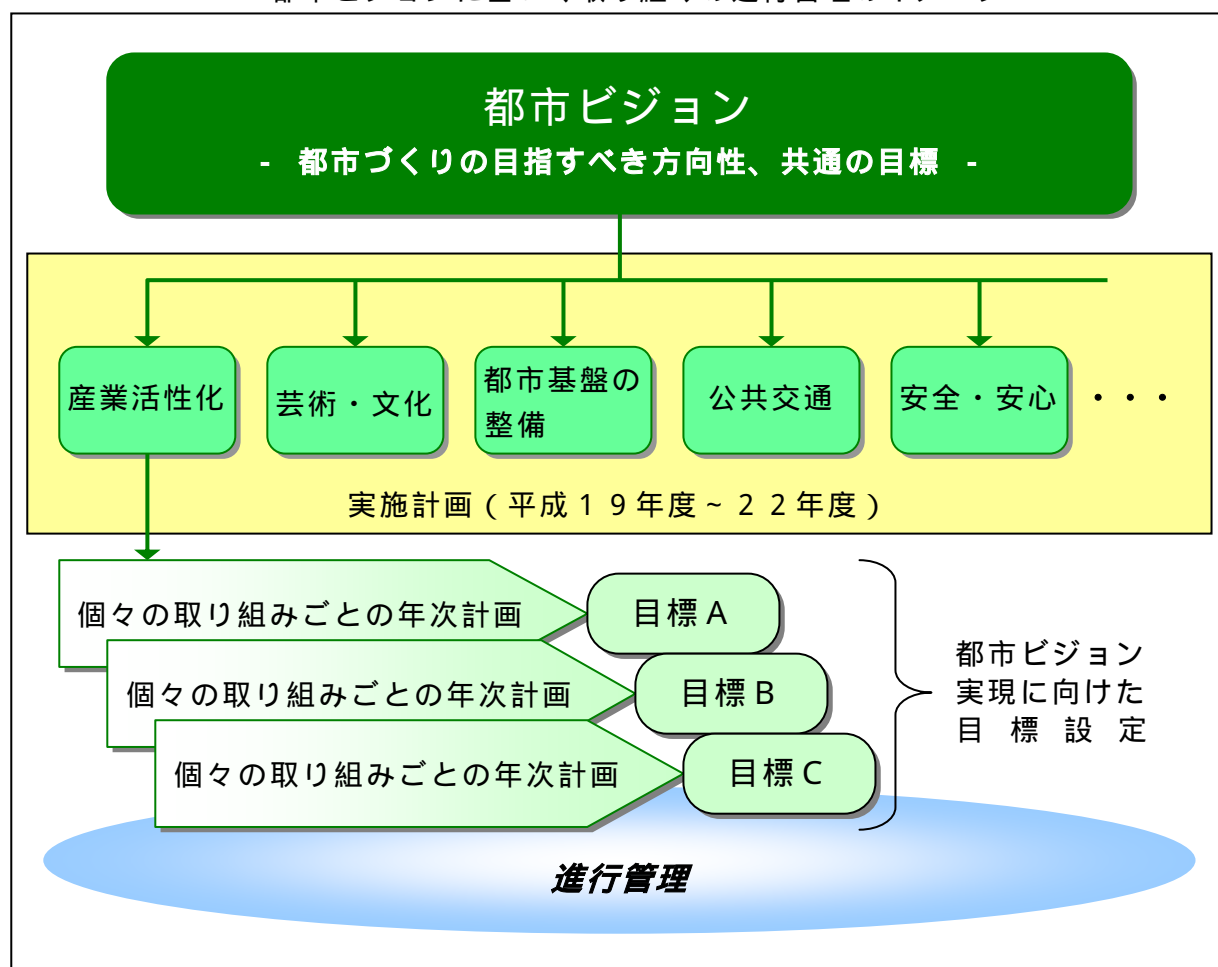
都市づくりの担い手は、市民、企業、行政など多様な主体が関わっていますが、基本は「人」です。高齢化、少子化がますます進展する中で、仙台をより住みやすく、誇りの持てる都市にしたいという情熱を持ち、様々な領域で、都市づくりに積極的に参画していく担い手、人材の育成が、都市ビジョンの実現に向けても不可欠な要素です。

こうした都市づくりの担い手、人材育成という視点を、学校教育の場面でも重視しながら、郷土を愛する心、郷土の歴史や文化を大事にする心を育てるなどといった取り組みも重要です。

5．都市ビジョンに基づく取り組みの進行管理

都市ビジョンに基づく各種の取り組みは、個別の政策領域ごとに、それぞれの計画等で、さらに詳細なアクションプラン（行動計画）が位置づけられることとなりますが、都市ビジョン実現に向けた取り組みの実効性を確保する観点から、主要な取り組みについては、実施計画（平成19年度～22年度）において、個々の取り組みごとの年次計画や目標設定を明確にし、進行管理を行っていきます。

都市ビジョンに基づく取り組みの進行管理のイメージ



仙台都市ビジョン会議 委員名簿 及び 審議経過

１．委員名簿（五十音順、敬称略）

< 全体会 >

所 属・役 職	氏 名	備 考
株式会社力リーナ代表取締役	赤塚 和子	
東北大学大学院教授	稲村 肇	
厚生労働省仙台検疫所長	岩崎 恵美子	
株式会社アドバンテスト取締役相談役	大浦 溥	
日本大学総合科学研究所教授	大岡 哲	共同議長
協同組合仙台卸商センター理事長	奥田 潤一	
A B パートナース株式会社代表取締役社長	北村 昭夫	
日本福祉大学福祉経営学部教授	訓覇 法子	
京都大学公共政策大学院特別教授	佐伯 英隆	
株式会社ホテル佐勘代表取締役会長	佐藤 潤	
前 東日本旅客鉄道株式会社取締役仙台支社長	鈴木 俊一	H18.6月末まで参画
宮城県商店街振興組合連合会理事長	鈴木 泰爾	
東北大学植物園長	鈴木 三男	
東日本旅客鉄道株式会社取締役仙台支社長	田浦 芳孝	H18.8月より参画
社団法人みやぎ被害者支援センター専務理事	武田 達夫	
スタンフォード大学工学部特任教授	リチャード・B・ダッシャー	
前 財団法人連合総合生活開発研究所長	中名生 隆	
東北大学大学院情報科学研究科教授	橋本 和夫	共同議長
前 NPO法人日本ホスピタリティ推進協会理事長	橋本 保雄	H18.7月まで参画
株式会社日立総合計画研究所取締役社長	藤原 作弥	
仙台商工会議所会頭	丸森 仲吾	
武蔵工業大学環境情報学部教授	宮本 和明	

< 作業部会 >

所 属・役 職	氏 名	備 考
協同組合仙台卸商センター専務理事	板垣 文弘	
東北大学大学院教授	稲村 肇	
日本大学総合科学研究所教授	大岡 哲	共同部会長
A B パートナース株式会社ゼネラルマネージャー	金子 輝樹	
京都大学公共政策大学院特別教授	佐伯 英隆	
社団法人東北経済連合会常務理事	佐竹 勤	
東北大学植物園長	鈴木 三男	
宮城県商店街振興組合連合会理事長	鈴木 泰爾	
東北大学大学院情報科学研究科教授	橋本 和夫	共同部会長
仙台商工会議所常務理事	間庭 洋	
武蔵工業大学環境情報学部教授	宮本 和明	
東日本旅客鉄道株式会社仙台支社企画部長	渡邊 英明	

2 . 審議経過

年 月 日	会 議 名	検討テーマ
平成18年 6月1日	第1回全体会合	仙台市を取り巻く時代環境とこれまでの取り組み 都市ビジョン策定の趣旨について 今後の検討スケジュール
6月20日	第1回作業部会	これまでの取り組み・都市ビジョンの位置づけについて 仙台市の置かれた状況とこれからの都市づくりの方向性について
7月31日	第2回作業部会	都市ビジョンの主要な論点について ビジョン検討にあたって持つべき視点と今後の都市づくりの方向性について
8月29日	第2回全体会合	都市ビジョン骨子案について
10月10日	第3回作業部会	都市ビジョン（中間素案）について
10月26日	第3回全体会合	都市ビジョン（中間案）について
12月21日	第4回全体会合	パブリックコメントへの対応について
平成19年 1月25日	第5回全体会合	都市ビジョン（最終案）について

ア行

アイデンティティ

同一性、存在の自己証明、それが拠って立つところのもの。ここでは（P40）、多くの市民が共有し、誇りとしうような、他の都市にはない「仙台らしさ」という意味で用いている。

ＩＣ乗車券

鉄道やバスなどの乗車時・降車時に、改札の読み取り機にＩＣチップを内蔵したカードや携帯電話を触れる又はかざすだけで運賃の支払が出来る乗車券。

アクセス３０分構想

「ひと・まち・環境にやさしい公共交通体系の構築」を目指す本市の取り組み。「市街地の居住地から都心まで、及び、主要拠点間を公共交通を利用して概ね30分で移動できること」を目標とし、移動時間短縮のための施策とともに、公共交通の利用しやすさに着目したサービス向上施策、市民や企業との協働により、車の利用者の交通行動の変更を促し、都市や地域レベルの道路交通混雑を緩和する施策を総合的に推進するための計画。

アグリビジネス

農業関連産業の意。食品加工業や農業機械、流通、販売、マーケティングなど農業に関わる幅広いビジネスを意味する。本市においても、農業をベースとした幅広いビジネスの展開を促進するため、農業生産者や大学関係者などによる研究会を設置するなど、アグリビジネスの振興に向けた取り組みが進められている。

（公共施設の）アセットマネジメント

資産管理。Asset Management。橋りょう・トンネル・舗装・上下水道施設・河川構造物等の公共施設を資産ととらえ、その損傷や劣化等を将来にわたり把握することにより、最も費用対効果の高い維持管理を行う概念。

アート

芸術、美術。ここでは（P24）、音楽、演劇などの舞台芸術に対して、美術、彫刻、建築など、視覚芸術、空間芸術を包括する概念として用いている。

アミューズメント

遊びの空間を備えた商業施設や文化、スポーツ、レクリエーションなどの施設、イベントなど、多様な非日常的空間での体験を提供し、その刺激や意外性などにより人を楽しませるもの。

Eコマース（電子商取引）

インターネットなどを活用し、電子的な手段で、契約や決済など商取引を行う形態のこと。

居久根（いぐね）

仙台の農村に多く見られる屋敷林。冬季の北風、風雪から家屋敷を守るほか、食料や建材、燃料として利用するために敷地を取り囲むように植えられた

屋敷林のこと。地域文化の継承、環境教育、景観保全などの観点から、近年その価値が再認識されつつある。

医工連携

医学と工学の連携の意。東北大学においては、世界的な研究水準を誇る工学系分野と、大学病院等の実証フィールドを持つ医学系分野との連携による先進医工学研究機構（TUBERO）が設立されており、新しい医療を生み出し、医工学の世界的拠点となることを目指している。

イノベーション

技術革新という意味合いのほか、生産性や経営の効率性の向上、研究開発成果の事業化、市場の開拓など、新しい価値を生み出すことを示す概念。

エアポートセールス

航空路線の誘致活動。

NPO

Non Profit Organization：非営利組織。政府、自治体や私企業とは独立した存在として、市民・民間の支援のもとで社会的な公益活動を行う組織・団体。

エンターテインメント

演芸、演劇、ミュージカル、音楽などの娯楽一般を意味する。

カ行

学際的融合

医学、工学、経済など、個別の領域における学術研究の枠を超え、例えば「医工連携」など、共通の課題認識のもと、複数の異なる領域の研究分野が連携し、より効果的な課題解決、新たな技術、アイデアなどの創造を図ろうとするもの。

「楽都」、「劇都」

音楽の都「楽都仙台」、演劇の都「劇都仙台」を目指す本市の芸術文化振興事業の取り組みの総称。

学都仙台コンソーシアム

仙台圏の各大学等が持つ様々な資源を活用し、市民・企業・行政とともに手を携えて、「学都仙台」のブランド力向上、地域社会の発展を目指し、大学等、商工会議所、市など26団体で構成する組織として、平成18年9月に設立。サテライトキャンパスや単位互換、「学都仙台」のブランド力向上のための広報活動などが展開されている。

軌道系交通機関

鉄道、軌道敷など専用の空間内を走行する交通機関の総称。ＪＲ線、地下鉄をはじめ、モノレール、ＬＲＴ、ガイドウェイバスなどがあげられる。

クラスター（cluster）

群れ、集団、ぶどうの房（ぶさ）などの意味。「産業クラスター」という場合、特定の産業分野に

ついて、原材料・部品調達、生産、流通、販売などの関連企業や、大学等の研究開発機能、金融をはじめとする産業支援機能が地理的に集中し、それらが競合しながら有機的に結びつき、総体として競争力のある産業群が形成されている状態を指す。情報産業における米国シリコンバレーなどが典型的な例。

クリエイティブ・クラスター

本市が進めている産業振興施策の一つ。ITやコンテンツ等の新産業とデザインや印刷等の既存産業との連携を推進することをはじめとして、最終的には文化・芸術活動などとの融合をはじめ、創造的な活動に従事する人々を本市に集中させる。これにより、新産業の創造と既存産業の高付加価値化を図り、仙台独自の創造的な産業クラスターとして育成することをねらいとする。

グローバル化

経済社会活動における世界的な相互依存関係の高まりから、様々な経済主体（国、企業、個人等）が国境を超えて、地球規模と視野で経済活動を行うようになること。

ゲートウェイ

全国各地や海外とのネットワークの窓口、玄関口としての役割、機能を指す。国際空港、国際貿易港、などが代表的なものとしてあげられ、鉄道網や高速バスのターミナルとしての機能などもあげられる。

健康寿命

認知症や寝たきりなど介護を要する状態にならず、元気に自立した生活を送ることの出来る期間を言う。個人の全生涯の寿命の延伸だけでなく、健康寿命をいかに延ばすかが大きな課題であり、特に生活習慣病の予防が鍵となっている。

高次都市機能（高次の広域的都市機能）

都市が持つ様々な機能の中でも、高付加価値商業機能、中枢管理機能、研究開発機能、人材育成機能、国際交流拠点機能、文化芸術・アミューズメント機能など、その都市だけでなく、より広域的な地域に対しても効果を波及するような機能。本市は東北の中枢都市として、東北全体の自立的な発展を支えていくための機能が求められる。

交通結節機能（交通結節施設）

異なる交通手段（場合によっては同じ交通手段）を相互に連絡する乗り換え・乗り継ぎできる機能とその施設。交通結節点の具体的な施設としては、鉄道駅、バスターミナル、自由通路や階段、駅前広場やバス交通広場、歩道などがあげられる。

コミュニティ

共同体意識を持って生活を営む一定の地域やその人々の集団。地縁などによる生活上のつながりだけでなく、趣味や活動など、同じテーマにより行動を共にする人々や集まりも含まれる。

コミュニティビジネス

地域住民が主体となり、介護、子育て、環境問題

など地域が抱えている様々な課題、ニーズに対応して、継続性のあるビジネスとして解決していこうとする地域密着型の経済活動を指す。

コンソーシアム

個々では実現できない大規模プロジェクトなどの事業目的を達成するため、複数の企業等が共同で形成し機能を分担しあう協力体制。永続的でない点で「組合」や「連合」と、また、組織や団体が全体で参加する点で「委員会」と異なる。

コンテンツ

映画、音楽、演劇、文芸、写真、漫画、アニメーション、ゲーム、図形、色彩、音声、映像などの情報の内容のこと。コンテンツ産業とは、コンテンツの生産、製作、流通に関わる産業を指す。

コンベンション

大会、会議、式典など、ある目的で多くの人々が集まる催しのこと。本市においては、「学都」としての強みを活かした学会、学会会議や、世界的に知名度の高い政府間会議など、仙台の都市ブランドの向上や地域経済への波及などが期待される催しの積極的誘致を図る取り組みを強化している。

サ行

サイエンスパーク

多様な研究開発を一ヶ所に集積させ、それらの連携のもとに研究開発、研究成果の産業化などを効果的に推し進めようという目的で計画された、関連企業・技術の協力が行われる特定の場所を指す。東北大学新青葉山キャンパス構想の中で、同地区へのサイエンスパークの整備が位置づけられている。

シティセールス

都市に活力をもたらし、市民生活を豊かにしていくために、都市の様々な魅力を外部に効果的にアピールすることで、様々な価値（人、お金、モノ、情報など）を都市に取り込んでいく活動。

ストック

蓄積された資産、施設等の意。ここでは（P44）、これまでに整備されてきた道路、公園、公共施設、上下水道、電気、ガスなどの都市基盤を指している。

税源移譲

国税の一部を地方税に移行し、地方自治体の独自財源を増やすこと。地方分権を進める上での必須条件であるが、平成18年度までの「三位一体改革」（国から地方に配分している国庫補助金や地方交付税を少なくする代わりに、国の税源を地方に移す制度改革）においては、3兆円の税源移譲がなされているものの、地方自治体側は不十分として、国に第二期改革を求めている。

成熟社会

人口や経済の量的な成長が飽和点に達した次の段階の社会。心の豊かさや生活の質を重視する価値観が重視されるとともに、個性や多様性を生かし創造

性を活力として、持続可能な安定性をつくりだしていくべき社会のこと。

せんだい演劇工房 10-BOX

演劇の都「劇都仙台」を目指す様々な演劇振興事業の拠点として、2002年に若林区卸町地区に設置された演劇練習施設。利用者の自主管理による深夜利用の実現、地元演劇人とタイアップした運営が導入されており、「劇都仙台」事業の拠点的役割も担うなど、演劇事業の発信・交流の中心となっている。

仙台空港アクセス鉄道

仙台空港 JR 仙台駅を直行で結ぶ鉄道路線で、平成19年3月開業予定。従来バスで40分以上かかっていた JR 仙台駅 仙台空港間が最短17分で結ばれるなど、仙台空港のゲートウェイとしての機能強化や、集客・交流の促進などが期待される。

仙台クラシックフェスティバル

音楽の都「楽都仙台」を目指す取り組みの一環として、平成18年10月7～9日に開催。「仙台をクラシック音楽のテーマパークに」というコンセプトのもと、誰でも聴いたことのあるクラシックの名曲を、身近に提供するフェスティバルとして開催したもの。

仙台国際音楽コンクール

仙台市が開府四百年を記念して2001年に創設し、3年毎に行うコンクール。コンチェルト（協奏曲）を課題曲の中心に据えるという特色を持ち、ヴァイオリン部門とピアノ部門から構成されている。2005年5月には国際音楽コンクール世界連盟にも加盟し、世界的な音楽コンクールとしての地位を確立している。

仙台21プラン（仙台市基本計画）

平成10年2月に仙台市が策定した基本計画（計画期間は平成10年度から22年度まで）。「仙台市基本構想」（平成9年3月議決）に基づき、同構想に掲げる本市が21世紀中葉を目指す都市像実現に向けた施策の方向性を、総合的かつ体系的にまとめたもの。

仙台フィンランド健康福祉センター

IT技術などを活用した高齢者の自立支援や在宅介護支援など、付加価値の高い健康福祉機器・サービスの研究開発を目的とした、フィンランド共和国と仙台市の国際共同プロジェクトの拠点施設。特別養護老人ホームと研究開発施設の二つの施設から構成され、平成17年3月、青葉区水の森地区にオープン。同センタープロジェクトを核として、高齢者福祉を中心とした健康福祉関連産業の集積を図り、本市産業の競争力向上を目指している。

せんだいメディアテーク

青葉区春日町に平成13年1月に開館した、ギャラリー、映像・音響等のスタジオ等からなる公共施設。市民図書館も併設されている。美術や映像文化の活動拠点としての役割を担っている。

創造的産業

本ビジョンでは、個人や大学、企業などの創造的

なアイデアや知識、技術、芸術性などをもとにした、付加価値の高い、競争力のある産業群を指している。例として、大学等の知的資源を活用した新しい産業や、芸術・文化などの創造性を活かした産業などがあげられる。

創造都市

グローバル化の進展や産業構造の転換といった時代環境下において、近年、欧州をはじめ世界的に注目されている都市のあり方に関するモデル。都市市民・企業等の創造的活動、特に芸術・文化や産業における創造性に溢れた活動が活発に展開され、こうした創造的活動により、地域経済の活性化や市民生活の質の豊かさを実現する都市のこと。

夕行

大学のキャンパス移転

現在、東北大学の青葉山新キャンパス整備計画とあわせ、同大学の雨宮キャンパス、片平キャンパスの一部が青葉山地区へ移転する計画などが進められている。

大規模集客施設

一定規模以上の店舗、飲食店、劇場、映画館、アミューズメント施設など、広域にわたる集客機能を持ち、都市構造に影響を与える施設を指す。

地産地消

地元で生産されたものを消費すること。特に農業分野においては、「食」の安全などの関心が高まる中で、地元で生産された食材を活用した食品、料理の提供など、市民の健康、地元農業の振興といった観点からも、その普及が期待されている。

地上デジタル放送

地上の電波塔から送信する地上波テレビ放送をデジタル化したもの。わが国では2003年12月に三大都市圏で放送が開始され、2005年12月から宮城県内においても放送が開始されている。

デジタルコンテンツ

デジタルデータで表現された文章、音楽、画像、映像や、それらを組み合わせた情報を指す。高速大容量のインターネットが普及する中で、デジタルコンテンツ関連の産業は高い成長性が期待されている。

道州制

現在の都道府県に代えて、より大きな規模の「道州」を新たに設置することにより、現在、国が行っている業務のうち、国でなければならないもの（外交や国防など）を除いては、基本的に「道州」と基礎自治体である市町村で担っていく形にしようとするもの。

都市型サービス産業

人口や企業・事業所が一定程度以上集積している都市に立地するサービス産業。IT（情報通信関連）、各種コンサルティング、デザイン、ファッション、メディア、文化、教育、娯楽、健康など、多

様化した消費者ニーズに対応した産業や、企業・事業所向けの専門的なサービス産業などがあげられる。

都市構造

都市の骨格となる交通網や、都市として必要な都市機能の配置、土地利用などの総体を示すもの。

「都市づくり」と「街づくり」

本ビジョンにおいては、次のように使い分けを行っている。

<街づくり>

ある特定の地域課題、テーマのもと、市民、事業者等の参画のもとで進められる取り組み（環境保全、安全・安心、防災、景観、芸術・文化振興など）

都心部、中心市街地、広域拠点、軌道系交通沿線・駅周辺、歴史的地区など、ある特定のエリアを想定した取り組み

<都市づくり>

上記のような様々な「街づくり」を包括する概念として用いている。

トランジットモール

都心部の主要な通りなどにおいて、一般の自動車通行を抑制して歩行者専用の空間とし、バス、路面電車など、公共交通機関だけが通行できるようにした道路空間を指す。

八行

バリアフリー

高齢者や障害者などを含めた、誰もが壁を感じるような社会をつくろうという考え方。狭義では、公共施設・公益的施設などにおいて、段差などの物理的な障壁や不便さを取り除くという意味合いであったが、本ビジョンではそうしたハード面のみならず、すべての人が暮らしやすいようにしていこうとする考え方に広げて用いている。

P F I

Private Finance Initiativeの略。これまで公的部門によって行われてきた社会資本の整備・運営等を、民間の経営ノウハウや資金、技術力を活用して行う新しい社会資本整備の手法。仙台市においても、新天文台整備・運営事業などに導入されている。

P P P

Public Private Partnership（官民の協力と連携の意）の略。公共サービスの提供において、何らかの形で民間が参画する手法を幅広くとらえた概念で、P F I手法のほかに、民営化やアウトソーシングなどの手法が含まれる。

プロダクトデザイン

工業製品や家電製品、建築設備などの形態や意匠、設計のこと。消費者ニーズの高度化・多様化が進む中、人とモノ（製品）との新たな関係を模索し、創造性溢れる製品開発へつなげていくプロダクトデザインの重要性は高まっており、成長産業としても期待されている。

プロモーション

販売促進、宣伝。ここでは（P27）、東北への集客促進のための宣伝、広報など一連の取り組みを指す。

ホスピタリティ

親切にもてなすこと、おもてなしの心。観光客などの来訪者を地域の人々が、おもてなしの心で温かく迎え入れること。

ポテンシャル

可能性、潜在的に持っている力。

ポートセールス

港湾の利活用促進を図ることを目的とする活動。荷主企業や船舶会社などへの誘致、P Rなどの一連の活動。

マ行

まちづくり三法

都市計画法、中心市街地活性化法、大規模小売店舗立地法の三法を指す。このうち都市計画法と中心市街地活性化法が改正され、都市の郊外部等への大規模集客施設の立地規制の強化や中心市街地活性化の取り組みの強化などの制度改革が進められている。

マルチモーダル

効率的な輸送、物流体系の確立と、良好な交通環境の形成を目指した、道路、航空、海運、水運、鉄道など多様な交通機関の連携による総合交通体系の充実を図ろうとする考え方。

「緑の回廊づくり」

本市が進めている「百年の杜づくり」の一環として進めている取り組み。J R仙台駅を中心に、半径2km程度の圏内を重点的に緑化を図るもの。

無線LAN

L A N (ラン：Local Area Network) とは、複数台のパソコン等を、相互に接続して作られた状態（ネットワーク）を表す。無線LANは、この相互の接続をケーブルなどに頼らず無線で行える状態を指す。

メディア

情報伝達などの機関、手段、方法、媒体。

M E M S（微小電気機械システム）

Micro Electro Mechanical Systemの略で、半導体の微細加工技術を駆使して製作された微小な部品から構成される電気機械システムを指す。次世代のエレクトロニクス産業および各種製造業における基盤技術として、環境分野、医療福祉分野などへの広い応用が見込めることから、ナノテクノロジー（超微細な世界を取り扱う技術）分野における東北大学の知的資源の蓄積などを活かし、新産業の創出などが期待されている。

M E M S パークコンソーシアム

M E M S 技術を始め、仙台地域の様々な知的資源を活かし、基盤技術の確立から製品化技術全般まで

を視野に入れた、付加価値の高いものづくりを実現していくことを目的に、産学官の関係者により設立された連携組織。コンソーシアムを通じて、産学官の機関が情報を共有し、MEMS技術を用いた新たな技術・市場を開拓していくための先端的研究開発を国内外の研究開発機関とネットワークを組みつつ実践し、新しい産業を創出していくことを目指す。

モーダルシフト

トラック中心の貨物輸送を見直し、機動力のあるトラックと大量に輸送できる鉄道や海運を組み合わせることによって、輸送の効率化やコストダウン、時間短縮を図ろうというもの。

杜の都

藩政時代、植林奨励策によって城下町に植えられた屋敷林と、青葉山や広瀬川の自然環境が一体となって、あたかも杜の中に都が出来たかのような市街地景観から、大正時代頃からこうした呼び名が定着したと言われている。戦災により市街地の多くの緑は失われてしまったが、青葉通や定禅寺通のケヤキ並木などが「杜の都」を象徴する空間として多くの市民に親しまれており、仙台の都市個性、代名詞としての「杜の都」は揺ぎ無いものとなっている。

ヤ行

ユニバーサルデザイン

「すべての人のためのデザイン」を意味する。障害の有無や世代、国籍や文化的背景の違いに関わらず、全ての人にとって使いやすい製品、建築物、環境をデザインすること。

ユビキタス

「あらゆるところに存在する」という意。ここでは(P23)、インターネットなどの情報ネットワークに、いつでも、どこからでもアクセスできる環境を指す。

四ツ谷用水

藩政時代から明治、大正時代を通じ、仙台城下を縦横に流れていた用水堀。最盛期の総延長は44kmと広瀬川の本流に匹敵する長さを有していた。広瀬川郷六付近から取水され、消化用水、水車用水などのほか灌漑の役割を果たし、住民生活と切り離せない水流であったが、昭和初期には市内から姿を消し、今では青葉区八幡町や旧市街地北部の一部にその名をとどめている。

ラ行

ライフライン

電気、ガス、上下水道、通信など、都市生活を支える施設・設備。

ランドスケープ

風景、景観などの意。ここでは(P40)、「杜の都」仙台の都市個性を象徴するような緑豊かな美しい、市民が誇りとしうるような眺望、風景資源を指す。

緑被率

市街地の中での樹林や樹木などで被われた面積の割合。